

## &lt;対応分類&gt;

- A 計画（案）に反映するもの  
 B 市民意見募集の時点で記載済み又は賛同の趣旨のもの  
 C 今後の計画推進の際に参考とするもの  
 D 市政運営等の参考とするもの

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
計画全般			
1	審議会からの提言書を見て、より詳しく成果や課題が理解できた。骨子案から一定省略されているのだと思うが、計画を作成される際には、そのような課題認識や背景について、詳しく記載したほうがよいと感じる。	A	この間の社会情勢の変化とともに、第2期市民参加推進計画の総括について、これまでの取組状況や成果、課題、市民参加推進フォーラムの審議経過、市政総合アンケート結果等の調査・分析など、詳細について計画に記載いたしました。また、より詳しい情報について、ホームページの御案内も掲載いたしました。
2	計画モノに関しては、前5年間の取組がどうだったかを分析し、だからここをこうしていくという中期・5年規模の計画・目標と、もっと長期の達成すべき姿を示すことが分かりやすいと思うのだが、今回の骨子案は第一回目の計画のごとく読ませていただいた。それなりによくまとまっていると思うが、過去の取組を総括してこうしていくということが示されていないのは残念である。過去を振り返らずして果たして実行・実効力あるものになるのか不明。	A	
3	「京都市市民参加推進計画」はこれまでに4回作られていることが分かりました。その4回で内容はどんなふうに変わってきているのかと、その結果、どんな効果や変化があったのか、知りたいです。	A	
4	各施策も、それぞれ具体的に何を行うのが例示されていないため、そもそも市民参加に馴染みのない多くの市民にとっては内容を理解することが難しいのではないのでしょうか。例えば、背景の説明であれば一般的な事柄だけではなく京都市における変化や課題を示すとか、施策であればこれにより何々ではこういうことができるようになりますよ、といったことが記載されれば、市民に身近に感じられる（到達）のではないかと思います。	A	
5	3期計画は、前期までと何が変わらなくて何が変わるのかを伝えてはどうか。社会情勢の変化を踏まえて示せば、より今日的な意義が伝わり、共感を呼ぶのではないかと。	A	第2期計画までの総括と課題、第3期で新たに重視するべき視点について、社会の変化とあわせて分かるよう構成いたします。
6	本件計画それ自体の制定に市民の参加があったのかについてもお伺いしたいと思います。	A	策定に当たっては、市民参加推進フォーラムによる議論や、市政総合アンケートの実施、市民意見を聴く場の開催やパブリック・コメントの実施など、市民参加が進めており、その内容についても計画に掲載いたしました。
7	参考の欄にある策定後の主な取り組みにおいて、現状既に参加している市民の方の世代別や性別がデータでもしあれば、見たいなと感じました。	A	令和元年度第2回市政総合アンケート「市民参加(市政、まちづくり活動への参加)について」により分析しており、その概要についても、計画に掲載するとともに、より詳しい情報について、ホームページの御案内も掲載いたします。
8	定数的な指標を頂きたいです。市民の市政参加が何%向上した場合、どんな効果がみられるのか。具体例を描くことで市政参加をすることのメリットがイメージしやすいです。	A	第3期計画では、目指す未来像、目指す地域社会の姿、基本方針を体系的に掲げるとともに、今後5年間に重点的に取り組むべき「重視する視点」を新たに設定いたしました。
9	示されている内容が「骨子案」の性質上、当然なのだが、理想的・定性的である。これから策定される「推進計画」においては、「推進」場合においては「後退」も含めて、定量的に測定可能な指標を設定し、またその具体例を「コラム」のような形で示すような「計画」の進捗状況が、市民目線で分かる工夫を、ぜひともして頂きたい！！	A	重視する視点には、「計画期間に目指す指標」を設定し、より実効的な運営を進めます。
10	理念の素晴らしい計画だが、それだけでなく、計画である以上目標値があってもいいのではないかと。	A	
11	より時期を明確にすることによって、市民がより計画に対してイメージを沸かせやすいと感じる。	A	
12	理念としては良いと思います。あとは具体策ですね。具体策がなければ進みません。今の市民の無関心さは、具体策がないことが原因だと思いますので、この計画の策定をきっかけに、ただのルーチンの計画更新ではなく、第1期、2期ではできなかったことを実施していただくことを望みます。	A	社会情勢の急速な変化や、未来予測が困難な時代の中、市民参加の理念や方針を市民と共有し、全庁で総合的に取り組むものとして定めま
13	計画であるにもかかわらずいつまでに何を行うのか示されておらず、これならば計画というよりも方針というべきではないのでしょうか。	A	計画に、目指す未来像、目指す地域社会の姿、基本方針の下、施策の推進例等の具体的な取組を盛り込みました。また、今後5年間に重点的に取り組むべき「重視する視点」を新たに設定いたしました。重視する視点には、「計画期間に目指す指標」を設定し、より実効的な運営を進めます。
14	大きな計画の概要なので細かい事業について記載されていないのは分かるのですが、別冊でも具体的な事業について提示がないとあいまいな賛成しかできないように思います。	A	
15	具体性がなかったため、具体例を付け加えて欲しいです。また、どのように行うのかも聞きたいです。	A	
16	全てにおいて具体例が少なかったため具体的にどんなことを行うのかが知りたいたいです。より多くの市民がまちづくりに興味を持って参加するために楽しみや意義を具体的にどうやって感じてもらうのか。	A	
17	抽象的でさっぱりわからない	A	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
18	「京都市市民参加推進計画」の趣旨が、本計画の中にとどまるのではなく、京都市基本計画をはじめ、市の策定する諸計画や実施する各事業において、貫徹していることが求められる。計画の位置付けの図では、双方向の矢印が何を示しているのか、明示されていないため、単に、「お互い齟齬のないようにする」程度のものとも見える。もう少し踏み込んで、「お互いの趣旨を踏まえ、積極的に取り組む」程度の表現はできないか。	A	「市民参加推進計画」が、市民参加推進条例に基づく計画であり、京都市基本計画の行政経営の大綱に基づく、市政運営の根幹となる考え方を示すもので、市民参加を総合的に推進する計画であることを記述いたしました。
19	3の社会情勢の変化や4の策定のポイントで示されたコロナ禍における新しい生活様式への対応や、人口の1割に相当する学生を活かす方法に関して、具体的な施策としてはそれぞれ施策12と施策7が対応するのでしょうか？だとすれば、自分が学生だからというものもあるでしょうが、より焦点を当てたような施策があれば嬉しいなど感じました。	A	重視する視点2「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」を掲げ、大学生をはじめ若い世代の参加を積極的に進めます。大学等との連携した学びの場の提供など、学生をはじめ若い世代を対象とした取組を計画に盛り込みました。
20	重視する視点の部分で、具体的に協働主体とどのような取り組みを行うかが示されていれば、より良いものになると思った。	A	今後5年間に重点的に取り組むべき「重視する視点」には、実効性を高めるための方策や、計画期間に目指す指標を設定するとともに、基本方針ごとには、施策の推進例を盛り込むなど、具体化いたしました。
21	この計画では具体的にどのようなことに市民参加するべきか、よくわかりません。何度も議論していたり、これまで役所と付き合いのある方しか、この計画を理解できないのでは。なので、市民参加が計画通りに進めばどうか、という未来像を示していただければ、わかりやすくなるのではないのでしょうか。	A	目指す未来像は、参加と協働により、豊で活力のある地域社会の実現であり、行政運営の理念として掲げました。京都のまちをつくってきた「市民力」が、継承され、困難な危機にも乗り越えていくために力が発揮できるおよう、市民と行政が共に取り組むものとして定めます。
22	現代の社会課題解決への挑戦は、簡単なことでは無いと思いますが、簡単な正解がないからこそ、今までのように議論を重ね続けて効果の分からないものを長期間かけて作るべきではないと思います。スピード感を持って実際の効果を繰り返し検証して、実効性のある解決方法を世の中に広めていくことが大事だと思います。	A	より実効性の高い計画となるよう、この5年間に取り組むべき「重視する視点」を掲げております。重視する視点には、「協働による課題解決への挑戦」を掲げており、課題解決の一手法として公民連携の取組を推進するなど、試行段階からの連携を積極的に進め、検証しながら実効性のある取組を広げてまいります。
23	京都市市民参加推進計画の基本方針と施策構成について、「はじめる、つながる、ひろがる」のうちの「つながる」を大切にしてくと良いのではないかと思います。今、SNSなどが発達して幅広い人とつながることは簡単なことのように思えますが、年代を幅広くつながることは簡単なことではないといことが自分がSNSを使っていて実感しています。同じ京都市のことを考え、意見を交換するという目的があれば、みんな同じ目的をもっているわけなので、幅広い年代の人とつながりやすくなるのではないかなど感じました。年代が違うだけで、考え方や視点も異なるので、特に若い人にとっては有意義な価値観を交換できる場になるのではないかと考えます。そこからのつながりが京都市をより良くすることにつながり、政策が広がっていくのではないかと考えました。	A	重視する視点2に「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」を掲げ、多様な年代や属性の市民が、未来志向で対話できる場をつくるなど、幅広く取組を進めてまいります。誰もが参加しやすいデザインを進め、参加のハードルを下げ、楽しみや気軽さを感じていただくことや、顔のみえる関係づくりや人づてによる情報伝達などを通じ、幅広い年代のつながりも生み出せるよう、参加の裾野を広げてまいります。
24	参加を広げるといった場合、全く参加していない人を参加させることに限らず、既に活動している人の繋がりを活かして、活動の輪を広げたり、仲間を増やしたり、はたまた次世代を担う中心的人物の育成やそういった人との関係づくりなどこそ、裾野拡大の本質ではないでしょうか。関心のない人にはどれだけ発信しても受け取ってはもらえないように思えます。	A	
25	全体像として、「広める」の具体案が薄いかと思います。	A	
26	若者への参加を促すのは正直難しさがある。例えば、地域の活動に学生に参加してもらっても、その時だけの関心に留まってしまうこともあり、主体的な参加や継続的な参加につながるにはハードルがあると思う。きっかけづくりなどで裾野を広げるのもよいが、その中で、しっかりと信頼のおける大人等との関わりなどで、関心をもった若者と顔の見える形で繋がるのが大事なのではないか。	A	短時間や、可能な部分だけ参加するような、参加のハードルを下げる取組を進め、参加の裾野を拡大する一方で、学びと信頼につながる対話の推進により、地域と学生をはじめ、様々な主体同士の持続的なつながりを推進してまいります。
27	内容的には、もっと具体的に施策の説明や取り組みをあげるべきだと思います。実際に京都市に住んでいますがこのような施策が行われていても自ら参加しようとは思えないです。このような市民が多いとせっかくの取り組みが勿体無い結果に終わってしまうと思うのですが、その辺りどのようにしてこうとお考えですか？	A	計画に、目指す未来像、目指す地域社会の姿、基本方針の下、施策の推進例等の具体的な取組を盛り込みました。また、今後5年間に重点的に取り組むべき「重視する視点」を新たに設定し、「計画期間に目指す指標」を盛り込むなど、より実効的な運営を進めます。また、興味を持っていただいた市民の方が具体的な参加の方法を知っていただくため、計画にも、市民参加ポータルサイト「みんなで作る京都」のホームページアドレス等を掲載し、御案内いたします。
28	市政に関心をもったとき、どうすれば良いのか。市役所内部の事業だけでなく、私たち市民向けのノウハウや発信が計画の中にあっても良いのではないかと。	A	
29	具体的に何をすればいいのか、何をすればいいのか	A	
30	大人でも難しい言葉や理解し難い問題とあると思うのでちよつとでも簡単に教えてもらえれば助かると思う。	A	定義の必要な言葉などについて、用語の意図を凡例に示すほか、専門的な言葉や近年登場した新しい言葉について、注釈やコラムを用いて、事例や概要を紹介いたします。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
31	分かりやすく伝えることはもちろん、対象に情報を行き渡らせることを重視されていて良いと思いました。「届けたい対象にしっかり伝える」ということは、伝える対象によって文字の大きさやカタカナ言葉(パートナーシップやイノベーションなど)に注釈をどこまで入れたり、他の言葉で代替したりしていくのか、といったことにも配慮していくことができればいいと思います。	A	
32	「市民」の定義が示されておらず、純粋に京都市に住民票を持つ者に限定するのか、現住している者を対象にするのか、はたまた京都市に係る者すべてを対象にしているのか、明らかにすべきであると思料します。後者である場合は、明文化し広く市民参加を呼びかけ、推進すべきであると思料されます。	A	
33	個人的には世界文化自由都市宣言やレジリエンス戦略など一般的には認知されていない単語が押し出されているのが伝わらないのではないかと感じた。「はばたけ未来へ！京プラン」を中心とした推進はわかりやすく理解することができる。	A	
34	SDGsを背景とした多様な主体の参画促進の項目で、2030年を目標としたSDGsの達成とあるが、SDGsとは何なのか、達成目標とはどういったものなのかをまずは具体的に示した方が、幅広い年齢層の市民の理解を得られやすいと考えました。	A	
35	全体的に一文が長く、修飾語が多用されていて本当にいいことが分かりにくく残念(短文の項目名と合わせて理解しようとした)。盛り込みたい内容が多いということは理解できるが、一般市民にも読ませたいのであればもう少し簡潔な文章にならないだろうか。	A	
36	全体的に、「多様な主体」ということばがでてきますが、外国人住民や外国にルーツのある日本人なども入っていますか？市民参加のいい仕組みが京都にはあるので、そういう仕組みをより多くの方に使ってもらっていいまちづくりができるようになればいいなと思っています。	A	
37	まちづくり、協働、市民力、地域力、SDGs、DXなど、行政にとっては当然でも一般にはまだまだ浸透していない言葉がかなり多く用いられ、読みづらく感じます。	A	
38	「まちづくり」という言葉が氾濫しており、そもそもの定義がわかりにくい。まちを住みよくなる活動全てを指すのか、どのような取組のことをイメージしているのか抽象的な印象を受ける。	A	
39	市政への参加の定義がわかりにくい。	A	
40	市政参加というが、何をもちて参加なのか。	A	
41	次世代、とは具体的にどこの世代の事ですか。	A	
42	「ナッジ」「仕掛け学」ってなんですか？ユニバーサルデザインがどんなものなのか説明が欲しいです。	A	
43	ファシリテーターとかいう横文字をしれっと入れられると混乱する。	A	
44	言葉が難しく全体的にわかりませんでした。市政参加とは、何ですか。具体的に何をやるのですか。	A	
45	難しい言葉が続いてよくわかりませんでした。より効率的な事業とはどういうことですか？具体的に教えて欲しいです。	A	
46	施策5について「誰もが参加しやすいデザイン」のデザイン、「参加に楽しみや気軽さが生まれるデザイン」のデザインが何を指すのか不明でした。前者は、Youtubeの説明で概ね理解できましたが、後者は、「ナッジ」や「仕掛け学」との説明に留まり、やや難解でした。安易に「デザイン」という用語を使わない方が良いのではないかと感じました。	A	
47	長々とした文章ばかりでなく、図式等もあり、読みやすく工夫されていると思いました。但し コミュニティー、デザイン等は理解できますが、外来語(例えばファシリテーター、レジリエンス等々)や今時のICT等々、辞書引き引き出ないと正確な理解ができません。	A	
48	社会情勢の変化に柔軟に対応していくことが今後の社会の中で重要視されていくことであると考えているので、市政参加の中でも、「Society 5.0」やデジタル・トランスフォーメーション(DX)への取り組みも示唆していてよかった。	B	社会情勢の変化や時代の潮流を踏まえ、参加と協働による市政運営をしっかりと進めてまいります。Society5.0の実現やデジタルトランスフォーメーションの重要性の高まりも踏まえ、市民参加制度の運用や協働の実践においても、デジタル化やICTの活用など推進してまいります。
49	私個人の意見としては生活にAIやデジタルを取り入れるところにより力を入れていただきたいです。日本でも兵庫県加古川市のようにデータを活用し子育てに力を入れています。今後世界の動きもそのようになると考えられますので観光地だからこそ世界に遅れを取らないというところに力を入れていただきたいです。その上で京都らしさと融合させた町はとても魅力的であると考えられます。	B	
50	デジタルの対応は本当に必要だと思う	B	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
51	内容に共感する。こうした計画を広く共有することで、仲間の輪を広げていってほしい。	B	重視する視点には「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」を掲げており、市民の皆様との対話の場の創出や、参加のしやすさ、楽しさ、顔の見える関係づくりなど様々な取組を進めることにより、より多くの方々に参加し、協働の輪が広がるよう取り組んでまいります。そして、豊かで活力のある地域社会の実現を目指します。
52	出来るだけ多くの市民の声、意見を取り入れる為にはすごく良い案だと私は思います。市民の関心を市政への参加につなぐ機会の充実やきっかけを作る為に、市政参加の機会や市民のまちづくり活動の活性化を考慮し、市民のまちづくり活動の活性化を狙い、最終的には今より多くの京都市民が充実し、納得のいく市政の下暮らしを街づくりは、私の意見としては凄く良い計画案だと思います。	B	
53	基本方針の、市民との未来像・課題の共有に基づいたうえで、市民の市政への参加の推進や市民のまちづくり活動の活性化を行うという考え方が、わかりやすく素敵だなと感じました	B	第2期計画から、未来像・課題の共有を基盤となる基本方針とし、対話を重視した取組を進めてきました。第3期計画では、基本方針を継承しながら、対話については学び合いと信頼関係が生まれるような質の向上にも力を入れ、市民の皆様と未来像・課題を共有し、市政参加の推進と、まちづくりの活性化がさらに進むよう、取り組んでまいります。
54	市民協働に関する京都市の前向きな姿勢が十分に感じられるとともに、市民理解を前提に市政参加とまちづくり活動支援を軸とする基本方針を立てている点は構成として分かりやすく思いました。行政内や市民に浸透できるようにがんばって取り組んでいただきたいと思います。	B	
55	計画の方向性については賛成である。コロナ禍においても、市民の市政への参加・まちづくり活動への参加が推進されるよう取り組んでいただきたい。	B	ウィズコロナ社会など先行きの見えにくい社会状況の中、持続可能な社会の実現のために、参加と協働による市政運営、まちづくりをしっかりと進めてまいります。市民の皆様と未来像・課題を共有し、市政参加の推進と、まちづくりの活性化がさらに進むよう、取り組んでまいります。
56	目を通した上で、共感と期待がありました。例えば「withコロナ」対策など今の現状に沿った内容もあり、そこに私たち市民の市政参加の関わりの必要性も改めて感じました。	B	
57	コロナで人とのつながりを大切さを実感する。今こそ繋がりがづくりを支援したり、繋がりを強化することが必要だと思う。	B	
58	コロナで人とのつながりがなくなって不安。今だから誰かとつながりたいし、まちづくりは目的が共有できると思う。市政参加も含め、メニューが沢山あればいいと思う。	B	
59	この計画において5年前から社会情勢の変化が取り上げられています。今回の新型コロナウイルスの蔓延に対してどのような取り組みができるのか、また、どのような効果を及ぼすことができるのかは、これからの計画策定において、重要な基準になりうると思うので、期待しています。	B	
60	今まで市民参加について考えたことははっきり言って無かった。しかし、コロナウイルスが蔓延してから、京都市がどのような対策を取るのかが気になった。おそらく、多くの人がウイルスに対する対策や保証を気にしているだろう。これをチャンスにし、市民の意見をより取り入れられる良い機会だと考える。世の中が変わりつつある今だからこそ、コロナ禍、また、コロナが収束した先のことまで意見を採れるのではないかなと思う。	B	
61	重視されるポイントとして、対話の推進、裾野の拡大、課題解決への挑戦を掲げられていますが、今後の5年、そして10年、20年といった将来へ向けても、大事な視点だと思いました。私自身が歳をとっても、そして、次の世代の子供たちにとっても、京都市が市民参加推進計画に掲げられているまちであり続けるならば、市民のみならず安心して参加し、充実した生活が送っていけると感じました。	B	目指す未来像、目指す地域社会の姿、基本方針は、今後も目指すべき理想的な姿として、前計画から発展的に継承いたしました。今回の重視する視点は、この間の社会状況等に対応し、この5年間に重点的に取り組むべきものとして新たに設定いたしました。この重視する視点をしっかりと浸透させ、政策・施策・事業に取り組む、参加と協働による市政運営を進めてまいります。
62	市民参加の仕組みは大きく整った今の時代に相応しい案だと思います。計画にせざるも、この骨子を多くの主体と共有して、「すそ野を広げる」「到達を重視」といったことを進められるよう取り組むことが大切だと思います。シンプルですが心の通った内容だと思います。	B	
63	重視する3つの視点がどれも明確で、どのような順序で推進していくのかがわかりやすく示されていると感じました。	B	
64	社会はめまぐるしく変化するのでその変化に合わせるより対応することが出来る柔軟な体制が必要であると考えられます。なのでパートナーシップや協働といったところに着目することで全体で社会情勢に対応する力をつける意思が感じ取れました。	B	計画では、市民参加の大きな理念や方針を設定するとともに、施策の推進例等を示しています。社会状況の急速な変化や、未来予測が困難な時代の中で、各施策は固定的に考えるのではなく、柔軟性を重視し、計画、実践、評価、見直しのサイクルの中で、計画期間中においても新しい取組や工夫を生み出してまいります。
65	コロナで状況が変わる今は、計画で事業を固めきめるのではなく、より多くの人と共有できる考え方や理想を示し、柔軟に対応出来るものにしてほしい。	B	
66	取り組みの施策の中でオープンイノベーションや、オープンガバナンスといった、近年の流行も取り入れており、流行への感度の高さも感じられた。	B	先行きの不透明な社会において、持続可能なまちづくりを目指すために、世代や分野を越えて、異なる視座や専門、資源などを持つあらゆる主体の協働が必要となっており、新たな時代に適応し、挑戦と変革に取り組んでまいります。
67	新しい言葉や活動にみんながついていけるような活動になることを願っています。	B	
68	私は、今回の「第3期京都市市民参加推進計画「骨子案」について、重視する視点がとても適切なものであると感じます。より多くの市民が市政参加をしやすいようにする環境づくりを行おうとしている点にとっても好感を持ちました。その理由として、まず現段階では市政参加を行なっている絶対数自体が少なく、より良いまちづくりを行う上では意見が偏っている場合があるからです。	B	より多くの方に市民参加していただくため、現時点あまり興味がない方や、興味があっても忙しくて参加できない方に働きかけていくとともに、既に参加されている方から、新たな参加者を呼び込んでいただけるような、市民参加の輪を広げる取組も推進してまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
69	目指すべき「市民との協働」は市民と行政と一緒に課題を解決することである。この点は明確に記載しておくべきである。ワークショップを多く開催し、多くの市民に参加してもらうことをゴールに設定するのは間違い。どんなまちにしたいのか市民と一緒に考えた後、市民と一緒に汗を流して「形にすること」をゴールとすべき。(行政の無駄使いとしてよく指摘されるようなイベント・ワークショップを開催し自己満足して終わりとしてしまっただけではダメ。成果を追求すべき。)	B	重視する視点に「協働による課題解決への挑戦」を掲げ、課題解決の一手法としての協働が進むよう、公民連携の取組等を推進してまいります。つながりを求めている方や、仲間を探している方の参加に資する取組も進め、協働の輪を広げてまいります。
70	次世代につながる市民参加とするのは簡単ではないと思います。それぞれの業界や組織や団体で、時間的な流れも考え方もつなぐ対象も違うと思いますので、それぞれが創意工夫して使えるような仕組みや考え方が示されることを期待します。	B	それぞれの分野や組織、団体の方が、それぞれの御事情や状況、次世代の定義に合わせた参加の働きかけができるよう、多様な主体の対話の場づくりなど進めてまいります。
71	この1年間の市政を見てみると、「市民との対話」という観点では、明らかに後退している。とすると、本計画の中で、さらなる後退の懸念を払拭する具体的な手法がほしい。	B	このような社会背景であるからこそ、市民参加の重要性が増しています。3期計画では、目指す未来像、目指す地域社会の姿、基本方針を体系的に掲げるとともに、今後5年間に重点的に取り組むべき「重視する視点」を新たに設定いたしました。重視する視点には、「計画期間に目指す指標」を設定し、より実効的な運営を進めます。
72	骨子案で特に重要視している学びや信頼を育む対話の推進、次世代につながる市民参加の裾野の拡大、協働による課題解決への挑戦は私自身も今最も必要だと考えていたので一致しています。	B	
73	行政が目標をつくり事業を進めるのは良いが、参加やまちづくりは飽くまで自主的なものでないといけないと思う。参加の意思がある人が参加しやすい仕組みや、自主性が生まれるような取組であってほしい。	B	参加の意思があっても、様々な事情で参加しにくい方や、現在興味がありな方にも興味を持っていただき、自分ごととして参加いただけるよう工夫してまいります。
74	社会変化の情勢変化について、骨子案にも書かれてもいましたが今年は非常にコロナウイルスに左右された年になりました。ただ、今回のことで分かったこともあります。例えば、対面営業店などの脆さです。コロナを乗り越えたとしても今後また新たな疫病が流行らないとは限りませんし、震災などでまた対面での仕事を行えない日が来るかもしれません。そういった時に対して、対面店の補填やオンライン指導等の対策案をもっと具体的にしておいた方がいいかもしれません。もっと具体的かつ効果的な支援を行える様、また万が一失敗しても後腐れがないように支援に関することに焦点をおいたパブリックコメントを集めるのも良いかもしれません。	B	あらゆる危機にしなやかに対応するレジリエンスが京都市の都市経営の理念の前提にあります。ウィズコロナ社会など先行きの見えにくい社会状況の中、オンラインの活用も含め、新たな対話の手法も取り入れながら、参加と協働による市政運営、まちづくりをしっかりと進めてまいります。
75	コロナだけではなく、感染症に強い市民協働の在り方も今後検討してください。	B	
76	市民のとの未来像とはどのような物ですか。	B	参加と協働により、豊で活力ある地域社会の実現を、この計画で目指す未来像としております。
77	市政参加を行うことにより、市政に市民の意見を取り入れることができ、協働につながるというメリットがあることがわかった。それらの意見や協働の関係がどのようなことに使われている、または使われる予定なのかを具体的に知りたい。	B	複雑化・多様化する社会課題に対して、市民、行政はじめ、多様な主体が協働し、取り組むことが重要であり、協働によって効果的な市政運営・まちづくりを行い、豊かで活力ある地域社会を実現しようとするものです。
78	「はじめる」と「つながる」においては、2つの施策が挙げられているのに対して、「ひろがる」は1つの施策しか挙げられていないため、他の2つよりも少し力が弱いように感じた。そこで、私は、京都市に限らず、異なる市と協力すると言う施策を考える。京都市の市政参加を促進するというのが今回の目的ではあるが、他の市が行っている施策などを市民に紹介することや、他の市に京都市が行っていることや市政参加の様子を伝えることによって、「つながる」と「ひろがる」という点の拡大を見込めると考える。また、他の市の施策を知ることによって、より良い施策が思い浮かぶ良いきっかけになる可能性も見込めると考える。	B	第3期計画を策定するにあたり、他都市の進んだ政策を調査してまいりました。このような調査結果も発信できるよう進めてまいります。また、市民参加、協働のまちづくりはすべての自治体のテーマでもありますので、他都市との協力関係や情報交換等も進めてまいります。
79	(骨子案の全体像について) 3つの基本方針の関係性がはじめるのページで図を用いて示されているので、後の詳細を読むときに入りやすいですし、方向性が明確でとても分かりやすいです。また、施策の横に(市政参加×はじめる)とあるように、どこに該当する施策なのか繰り返し記載されているので、趣旨と具体的な活動目標をその都度照らし合わせることができて理解しやすいです。	B	計画でも、骨子(案)でお示した全体像の図、表題と各項目の関係等を最初のページに示す、レイアウトといたします。
80	全体像であるが、計画を推進する順番が図を使って描かれており、わかりやすい見た目となっている。	B	
81	見開き1ページに、全体像のプロットが分かりやすい。まず全体像を把握して細部に入るのも、忙しい方にもアプローチしやすいと思う	B	
82	市民参加と聞いてイメージする内容は人それぞれと思うので、「市政への参加」と「まちづくり活動」の2つですとしたことで、意図がよく伝わると思う。	B	
83	全体的に見やすく理解しやすかったです。	B	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
84	全体像など図柄は分かりやすいと思います。市民に興味をもってもらえるデザインが市民参加を進めるうえで広報物やホームページに必要だと思います。	B	
85	取り組み自体には賛同するが、実現へのハードルは高いように思える。役所の職員も最近派遣が多く、果たしてつながれるのかが疑問。今後ますますパブコメが充実し、本来の協働になるように祈ります。	B	計画には、今後5年間に重視する視点を掲げ、計画期間に目指す指標を設定するなど、実効性を高め、推進してまいります。
86	「みんなごと」というシステムについてもっと詳しく知りたいと思った。	B	本市では市民の自主的なまちづくり活動や、市民同士のつながりを重視し、政策を進めています。まちの課題をひとつとせず、自分ごと、みんなごととして取り組む「みんなごと」のまちづくり推進事業については、ポータルサイト「みんなで作る京都」で発信しています。
87	企業や大学、NPOなどが連携して支え合うとあるが、京都に店舗、校舎を置く府外の企業、大学もそれに参加してもらえるのか。もし参加してもらえない、又は完全に京都のみと絞るのならどういった形で行うのか。	B	本計画では、京都市に関わるあらゆる主体が対象であり、多様な主体の連携、協働を推進してまいります。
88	このような計画があるとは知りませんでした。みんなにも紹介したいと思います。	B	市民参加が市民から市民へつながるよう、知っていただくこと、知っていただいた人から伝えていただきたいような計画にするよう努めてまいります。
89	良い計画ですね	B	豊で活力のある地域社会の実現に向けて、市民の皆様と未来像・課題を共有し、市政参加の推進と、まちづくりの活性化がさらに進むよう、取り組んでまいります。
90	少し市政に興味をもつのも良いなと思いました。	B	興味を持っていただいた市民の方が具体的な参加の方法を知っていたら、ポータルサイト「みんなで作る京都」では、市政参加とまちづくりの新鮮な情報を発信してまいります。
91	骨子案に関するパンフレット、およびYouTube上における解説動画を閲覧させていただきました。全体的に最終的ビジョンが明確であって、その実現に関する道のりも段階別に考えられている印象を持ちます。	B	
92	内容がはっきりわかるのと募集期間をちょうどいい期間でとっているの、たくさんの方々の方向からの意見が集まるのではないかとと思うので良いとおもう。	B	
93	年齢関係なく関わって市内がより明るくなる取り組みをしたい。	B	
94	少しの気遣いが京都市を良くしていくということがわかった	B	
95	SDGsについてで大学などで意欲が高まっている事をはじめって知って驚いた	B	
96	骨子案というものをもっと知りたいです。	B	
97	市民との関わり方について興味を持った。なぜそのような施策をしようと思ったのかと疑問に思った。	B	
98	とても良い計画だなと思いました。南三陸の祈念公園の管理(ゴミ掃除・雑草対策)について、行政だけでは維持できないこともあり、町の人達でどう関わっていくかを考えているところですが、ただ管理するとなると、持ち回り、厄介ごととなるので、公園を楽しく使って、そのついでにきれいにするような管理をしようとしています。最低限のルールはいるかもですが、ある程度自由さがある方が、町の人が社会課題に自らを投じて楽しむことにつながるのではないかなと思います。	B	本市では、まちの課題の解決をひとつではなく、自分ごと、みんなごととして市民・行政が取り組む「みんなごと」のまちづくりを進めています。頂いた具体例のように、自由度や楽しさも含めた取組を進めてまいります。
99	第3期京都市市民参加推進計画が、選挙の投票率のアップや自治会活動の活性化に繋がることに期待します。	B	投票率や自治会活動も含め、多くの方が市政、地域に興味を持って参加できるよう、参加のデザインの工夫、シチズンシップ教育等の充実等を進めてまいります。
100	理想の街づくりにおいてみんなで協力していくことが大事だとわかった。自分の意見がどんなふうになるか気になる。	B	市民参加の様々な情報は、ポータルサイト「みんなで作る京都」などにより、発信してまいります。
101	対等なパートナーとして協働できるというところが、意見も出しやすくなるので良いと思った。色々な団体を集める時にどのようにして集めるのか気になった。	B	
102	骨子案の冊子や分かりやすく動画にしている点など凄く工夫が施されていて、僕が京都市民だったらとても嬉しいなと感じました。その工夫や努力が京都市民に広まる様に頑張ってください。	B	今回のパブリック・コメントでの解説動画は京都市内の大学生の御協力により作成し、キャラクターの作成など、行政職員の発想からは生み出しにくい、親しみやすい発信が可能となりました。今後とも、市民参加制度のハードルを低くし、参加しやすさを、ターゲットに届く発信の手法、工夫に取り組んでまいります。
103	短い動画でわかりやすく、可愛いキャラクターもいて見やすい動画でした。	B	
104	パブコメのリーフレットを一読した印象は、「市民参加」にしては、とっつきにくいというものでしたが、Youtubeにての説明は親切で、分かりやすいもので、良い試みだと思います。	B	
105	解説動画をつけることや方針を明確化することがわかりやすいと思った。	B	
106	一話の時間がちょうどいい感じで、見やすかったです。	B	
107	Youtubeを用いた骨子案及び施策の解説は、より多くの人に市民参加の機会を与えると感じました。文章を見るよりも内容が頭に入ってきやすく、市政参加へのハードルが低くなるため施策7における次世代に繋がる市政参加という観点からみても、より良い手段であると考えました。	B	
108	方針、施策内容は非常に良いものだと感じた。しかし現時点骨子案の状態よりももう少し具体性が高い状態になってからの方が議論が生まれより価値のある意見募集になるのではないかと感じた。	C	骨子の段階で幅広くご意見をお聴きし、計画の具体化を図るとともに、計画を推進する際にも、アンケートやワークショップなど様々な参加の機会を通じて御意見をお聴きしながら、施策や取組を効果的に進めてまいります。
109	それぞれの施策を実施することによるプラスとマイナスの面が記載されていませんが、メリット・デメリットをそれぞれ踏まえたうえでの内容であることを示した方が、より政策的と言えるのではないのでしょうか。現在話題となっている財政難の課題についても同様ですが、行政にはそのような説明責任が求められるものと思います。	C	計画の推進においては、市民参加推進フォーラムによる調査・分析などにより、見える形で進捗管理を行い、計画・実践・評価・見直しのサイクルの中で効果的に実施してまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
110	目指す未来像のフレーズが抽象的で、参加意識を向上させにくいと思いますので、より印象に残る具体的なキャッチコピーにできないでしょうか。例えば、「近所の人と自然とあいさつできる地域社会の実現」	C	目指す未来像は条例に基づいた理念的な表現としておりますが、市民参加の各種施策を実施し、情報を発信する際には、市民の皆様が、より親しみをもって参加のハードルを下げられるような表現や工夫を進めてまいります。
111	言いたいことを言うだけの参加は参加ではないと思う。行動につながる仲間の拡大でないと意味がないのではないかな。	C	関心を持つ、意見を言うところから市民参加は始まりますが、さらに行動や持続的な参加につながり、市民参加の輪が広がることでより裾野の拡大や協働の課題解決につながると考えます。はじめる、つながる、ひろがる、を意識してしっかり取り組んでまいります。
112	策定のポイントの一つである市民参加の裾野の拡大に着目した。参加するきっかけのない人のために「友人作り」を積極的に行うことのできる町づくりの導入を行うべきだと考える。若者は将来の地域について考える機会が少ないと思う。そのため最初に友人作りを目的にまちづくりに参加してもらう。そして参加したことがきっかけで町づくりの魅力を感じ取ってもらうという方向性が良いと考える。	C	より多くの方に市民参加していただくため、現時点あまり興味がない方や、興味があっても忙しくて参加できない方に働きかけていくとともに、既に参加されている方から、新たな参加者を呼び込んでいただけるような、市民参加の輪を広げる取組も推進してまいります。
113	日頃から友達や家族と意見の交換をするようにする。	C	
114	例えば、「地域の高齢者の皆様が相互に支え合うまちづくりをすすめる」ために実施されている「地域支え合いボランティア活動助成事業」を効果的に実行するために、「市民参加推進条例」を活用する方策を考える仕組みが「骨子」に盛り込まれれば、より市民に親しまれる「条例」や「推進計画」になると考えます。	C	個別の事業は、全て市民参加推進条例、同計画の理念に基づいて実施されるべきものであり、各事業でその理念が徹底されるよう取り組んでまいります。
115	社会情勢の変化という点ではコロナ下やコロナ後での新しい生活スタイルや働き方などが3つの重視する策定ポイントのどの部分に当てはまるのかが分からなかった。	C	コロナによる社会情勢は、重視する視点の背景にあるもので、全てに関わるものですが、例えば、新しい生活スタイルや働き方などに応じ、参加のしやすい工夫などに取り組むなど、各施策で推進してまいります。
116	冊子1頁に「市民参加」は「市政参加」と「まちづくり活動」の2つを合わせたものという理念/概念が示されているが、その姿が思い浮かびにくい。例えば、「京都市民長寿すこやかプラン(案)」の41頁にあるような「コラム」で、上記2つが融合して成果を出している先進事例をいくつかの「政策分野」から示されると、イメージがしやすくなると思います。	C	協働の成果を出した先進的な事例を発信することは、市民参加をイメージしやすくするものと思います。様々な情報発信の機会においても参考にさせていただきます。
117	記載内容に取り組むためには少なからず経費が必要はず。財政の今後について考えておられる中、先にプランを策定しても実現が難しいのでは。なぜ今つくるのか。市トータルの整理はどうなっているのか。不誠実。	C	市民参加推進条例や京都市基本計画の行政経営の大綱に基づいた、全庁で市民参加を総合的に推進するものとして定めるものです。社会情勢の急速な変化や、未来予測が困難な時代の中で、参加と協働による市政運営、まちづくりをしっかりと進めてまいります。
118	冊子3頁に「計画の位置づけと計画期間」が示されており、「特に関りの深い計画」「各種政策分野別の推進計画」が示されているが、「第8期京都市民長寿すこやかプラン(案)」の詳細版24頁に「京都市版地域包括ケアシステムのイメージ」が示されており、又、同23頁に「目指すべき地域包括とは？」とある。「目指すべき姿」は、市民(住民)一人ひとりが、市政とまちづくりに積極的に関わっている姿であると考えるので、「京都市民長寿すこやかプラン」も「各政策分野別の推進計画」に示されてもよいように考える。	C	市民参加推進計画は、市民参加を総合的に推進するための計画であり、各分野別計画に横断的に関わるものであり、個別の計画との関係は煩雑になりすぎるため図の中には記載しておりませんが、様々な分野別の計画の中に市民参加、協働の理念を込められるよう取り組んでまいります。
119	SDGsについて、市民参加が目標17であるように記載されているが、17はグローバルパートナーシップであり、国内の市民参加ではない。国内の市民参加は目標16である。これは目標17のロゴに「パートナーシップで～」と記載されているため勘違いされることが多いので注意が必要である。目標16は、「環境と開発に関するリオ宣言」の第10原則がもとになったものであり、司法及び行政アクセスを含む市民の参加を指す。なので、推進体制の図の中心に来るのは目標17ではない。SDGsは全ての目標が関連しあって目標を達成するものである以上、どちらが中心にあるというのはいかがでしょうか。他都市でも17を市民参加としていることが多いが、他都市が間違っているのであって、SDGS先進市、全国1位の京都市がそこを間違えてはいけません。国際的に見られると「え?」「ん?」「なんで市民参加が17なの?」と不思議に思われます。	C	目標16で掲げられるターゲット「有効で説明責任のある透明性の高い公共機関」や「対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定」と、目標17で掲げられるターゲット「公的、官民、市民社会のパートナーシップ」いずれも市民参加として計画が対象とするものです。SDGsの実現に向けて、参加と協働の市政運営、まちづくりをしっかりと進めてまいります。
120	市民参加推進計画を読み解ける人でないと、コメントをすることさえできないのではないかな。(例えば障がいのある人等…)	C	定義の必要な用語や、一般的でない用語は、凡例や注釈、コラムを追記いたします。また、計画策定後には、色々な方に市民参加や協働の取組を知っていただけるよう、ユニバーサルデザインによる発信等に取り組めます。
121	目指す地域社会の姿に「京都に関わるあらゆる主体」という表現について、京都ではなく「地域社会のあらゆる主体」の方が適切かと思えます。	C	現時点で地域社会に属されない方、例えば観光客や、京都出身で他地域に引越された方、大学時代に京都にいらした方、京都でビジネスを検討している首都圏の企業の方など、より多くの京都に関わる方々にも参加いただきたいという意味合いも含め、このような表現といたしました。
122	YouTubeを使った宣伝に関しては、取り組み方によっては良くも悪くもなると思う。コメント欄を使った意見募集は純粹に考えたら良い提案であるが、誰でも気軽にコメントできる反面、その意見の信頼性や本気度まで咀嚼することはできないのではないかな。そして動画の体裁であるが、わかりやすく訴えかけたい面と実際の内容の難しさのギャップで、どの層を、ターゲットにしているのかいまいちわかりにくくなっている気がする。	C	今回YouTubeを使った動画発信では、残念ながら直接コメント欄での意見は頂けませんが、学生や中高生に見ていただき対話の中で感想をいただく、対話型パブリック・コメントの取組の中で、若い方に骨子案の内容を知っていただくのに効果を発揮しました。今後も、実践の結果の分析を踏まえて、届けたいターゲットへ訴求できる発信について引き続き検討して参ります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
123	新しい参加者が活動に参加しやすくするために情報収集や意見交換をする場のデザインを工夫するとおっしゃいましたが、具体的にどのような工夫を取り入れていくつもりですか？参加しやすくなるデザインをするのならば動画の編集ももっと凝るべきだと思います。	C	頂いた意見を参考に、市政やまちづくりの情報が広く伝わり、市民参加につながるよう取組を進めます。動画での解説も含めて、ターゲットに届く届く発信の工夫など、さらに進めていきます。
124	到達主義という考え方は、若者への訴求を進めていくためには重要なものだと思いますが、今回YouTubeの動画を見させていただいたうえで、動画の時間が少し長いなと思いました。YouTubeではやはり10分程度の動画時間が主流となっており、その中で40分一気に見ようとはよほど好きなYouTuberとかでない限り、なかなかありません。まだ市民参加がひろがっていない若者を伝えたい対象とするのであれば、動画時間などにも細かな配慮をしていくことで、少しでも伝わりやすくなると思います。	C	市政参加とまちづくりの情報は、ポータルサイト「みんなで作る京都」をはじめ、様々な情報発信を進めております。また、今回作成した動画は大学や中学校への対話型パブリック・コメントの実施に当たって、市政参加を親しみやすくする取組として活用することができました。引き続き、頂いた意見を参考に、市政やまちづくりの情報が広く伝わり、市民参加につながるよう取組を進めてまいります。
125	少し動画見ても分かりませんでした。熱意は伝わるのですが画像を使うなどわかりやすく動画を作って欲しいです。	C	
126	時間があるならもう少し動画の質を上げた方が良い。サムネイルとか、演出の仕方とか(文字以外にも)	C	
127	京ばぶについて私は授業で初めて知ったし、まだ動画も2個しか見てない。配布された本もしっかり読めてない。知識が全然ない状態なので基礎的な情報ぐらいは知っとこうと思った。市民の参加が必要な京ばぶ。市民が知らないと話にならないはずなのに、実際私と周りの子も知らないし、家でもそういう話は聞かないのですがどこにどういった広報活動をしているんですか？(？)	C	
128	「きっかけ」を作る、というのはすごいいいと思いますが、YouTubeを見ていて、チャンネル登録者数、視聴回数の数字から、知名度を上げないといけないかなと思いました。(自分も京都市民ですが、知りませんでした。)今現在、知名度を上げる為に行っている取り組みを知りたいです。	C	
129	YouTubeに関しても、ただ計画案の文章をYouTubeに落としていただけでわかりづらく感じた。YouTubeの特性を活かして、絵や図や映像を使用して広報等を行う方がよいのではないかな。	C	
130	第三回京都市市民参加推進計画骨子案についてのyoutube動画が惜しいなど私は感じました。結論から述べると、具体例をあげるなどの、どの世代にもわかりやすいコンテンツにすることです。私は、非常にわかりやすいと感じましたがこの動画を小学生が見た時に少し難しい単語や小学生が理解できなさそうな単語があったので理解できないと思います。	C	
131	市民の意見を取り入れるために、どのような機会を設けるのか。また、動画で話していたことが、決まったことをそのまま話しているように聞こえてよくわからなかった。簡単に言えばどうなのかわかりづらかった。	C	
132	この計画がどう言うものなのか全体的なものはわかり、自分自身もこの活動に参加できると知ったが、難しい言葉が多くて理解しにくかったので、動画内でも図やグラフも使ってほしいと思います。	C	
133	まず、内容というより動画自体が見にくかったです。もっと登場人物に動きをつけるなり、見てて飽きない工夫をするべきだと感じました。そして冊子の説明も入れるべきだと思いました。	C	
134	動画が始まるまで長い。サムネも工夫するべきだと思います。画面の上に空白があるのでそこに字を置けばもう少し見やすくなるのではないのでしょうか。	C	
135	まず、言葉が難しく理解できない場合があると思います。画面も変化がなくて単調なので聞き流してしまいます。この動画はどの世代向けに作られたんですか	C	
136	認知度のためにされているYouTubeも、難しい言葉も多くて、単調なイラストと文字しかなくて何を考えられているのか全く分かりませんでした。	C	
137	京都市のこれからの3つの方針が動画を見て少し理解することができました。しかし、動画にあまり変化がなく専門的な観点が多かったので、少し伝わりにくいなと見ていて感じました。	C	
138	文字が見にくい	C	
139	テロップ？が単調で見てて飽きてくるような気がする。図や資料を入れたり伝えたい部分を強調した方がよいと思います。	C	
140	動画が文字と音声ばかりでわかりにくかった。	C	
141	動画については、音声に合わせて文字を出すのでは無く、先に図にしてまとめておいた方がよいのでは無いか。	C	
142	動画の面白くない。伝えることを並べただけ。	C	
143	正直はやくて一回見ただけじゃ内容が入ってこなかった。「オープンイノベーション」「オープンガバナンス」を推進するという内容だったが、それがどういふものなのか、という事は説明されていたが、それはどこで、どんな風に行くかなど具体的な方法が説明されていなかった。キャラクターなどを使ってみんなにわかりやすく伝えようとしているなら、もっとイラストや図を使ったり、難しい言葉を普段使うような言葉に置き換えて説明した方がよいと思った。	C	



番号	意見要旨	種別	本市の考え方
市民との未来像・課題の共有(基本方針1)			
144	「市民との未来像・課題の共有」に関する施策として、「到達を重視する情報発信」というものが挙げられていたが、ここが非常に重要だと思います。比較的高齢者は市民参加推進計画等の市が発表している計画等に関心があるように思いますが、若者はまだまだ関心が薄いように思います。未来を担っていく若者により市政参加をしてもらうためには、インフルエンサーなどの拡散力を使い、発信していくべきだと思います。パブコメチャンネルも、非常にわかりやすく言葉を噛み砕いて説明されていたのに、再生回数を見ると、まだまだ市民にリーチ出来ていない状況かと思えます。発信力を上げるとより市政に関心を持つ若者が増えるのではないかと思います。	A	施策1「到達を重視する情報発信」において、人づてによる情報発信の活用を掲げ、顔の見える関係による情報の伝達や、市民同士の情報伝播なども進め、効果的に情報を共有します。また、施策5「誰もが参加しやすいデザイン」で、声をあげにくい方や、参加に困難がある方の声もお聞きできるような場のデザインなど、取組を進めます。
145	生活に余裕がなかったり、参加に必要な知識や人的、金銭的資源が整っているとはいえない市民の意見も、市政やまちづくりに反映できるような工夫がなされるとよりよいと考えます。 具体的には、親しみやすく身近な困りごととリンクした情報発信、また庶民的かつ社会的課題にも関わるようなコンテンツを発信しているインフルエンサーと呼ばれる人との協働も有効なのではと感じています。(子育て世代の課題を対象するなら、助産師ユーチューバーといわれる方も参考にされると面白そうだなと思います。)	A	
146	情報発信をしようと言っていたけれど、どのような方法で発信するのか。情報を発信して、その情報をどのようにして市民の人たちに見てもらおうのか。ただ単に発信するだけでは見てもらえないのではないかと。	A	市政やまちづくりについて、より広く知っていただき、参加につなげるため、到達を重視した情報発信や、気軽に参加いただけるデザインの工夫を進めます。 情報発信に当たっては、届けたい対象が触れる機会の多い媒体や集まる場所での発信など、ターゲットを意識した情報の発信について計画に盛り込み、推進してまいります。
147	情報発信において届けたい対象にしっかり届けることを重視するのはとても素晴らしい。 現在、私たちに市政の情報が届いているとはいえないため、まずは情報を届けるということを重視するのはとても良い事だと思う。 その際、一つの方法ではなく、年齢や性別などターゲットごとに情報の伝え方を変えていくと良いのではと私は感じた。	A	
148	情報発信についてはさまざまな方法があると考えられるが、老若男女関係なく情報を伝えられるのはやはり公共の場所にポスターを貼ったりチラシを配ったりすることだと思うし、若者に向けた情報であれば若者の利用者数が多いSNSが効果的であると思うし、歳を重ねた人たちに情報を伝えるのであれば新聞で広告することは効果的だと思う。このように情報発信の手段を変えることで伝えたい対象に情報を伝達することができると私は考えた。	A	
149	基本方針1の施策1 到達を重視する情報発信というところがすごく良いと思った。現在は紙媒体だけでなくSNSなど、情報発信のツールはいくつも存在するので、年齢や事業内容によって、それらを使い分け、届けたい人にしっかり情報が伝わると良いと思った。	A	
150	どの世代でも、どんな文化の人でも興味を持ち、参加できるとはなかなか難しいと思うけれどそれをどうすれば実現できるか考える立場になってみたいなど思いました。しかし企画を出しても認知度は低いと思いますが認知度を高めるにはどうするんですか？	A	
151	市民が市政参加やまちづくりに興味を持つきっかけを作るためということであるならば、嫌でも目に留まるようにする必要があると思う。そのため、SNSでの情報発信はもちろん行う意味はあると思うが、民間メディアとの連携はとても重要だと思う。例えば、電車に乗るときの駅のホームや電車の中、テレビなどのふとした瞬間に目に入る広告や動画、街を歩いているときに耳に入る言葉や音など、意識外から入ってきて頭に残るようなものを作っていく必要があると思う。	A	
152	施策1に関して:「到達を重視する情報発信」とあるが、情報の受け手が「自分ごと」としてその情報をとらえることができるか、そうした工夫を発信時にすることができるか、が大事だと思う。ターゲットに刺さる広報という点では行政の広報はまだダメなので、大事な視点だと思う。	A	情報発信に当たっては、市政課題が自分ごと、みんなごととして市民と行政が共有できるよう取り組むとともに、ターゲットを意識した情報の発信について計画に盛り込み、推進してまいります。
153	到達主義を重要視した情報発信をすると記載されていますが、若者は自ら情報を得ようとする人は少ないと考えているのですが、若者への情報発信の方法はどのようにされる予定なのでしょう。	A	市政参加について、より広く知っていただき、参加につなげるため、到達を重視した情報発信や、気軽に参加いただけるデザインの工夫など進めます。若者の市政参加を推進するために、学校等と連携した学びの場づくりや、生活の中で、自然と参加が促される工夫など、計画に盛り込み、推進してまいります。
154	若者の参加が大切なんだと知りました。ですがわたしも含めて、このプロジェクトの認知度はとても低いと思います。なのでこれをどうやって広めていくのですか？	A	
155	学生にパブコメ骨子案冊子を見せても知らないとのことだった。知らない人を減らすために配っている。いいこと書いていても届いていないと意味がない。	A	
156	誰もが参加しやすいデザインの他に、この計画をまだ知らない人や子供に、この計画を知ってもらう工夫はあるんですか。	A	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
157	対等な立場で気軽に話し合うというのは、どのような場面でも難しいことだと思いますが、前向きに話すためにも、楽しく話せるための基本ルールを皆が事前に共有しておくことが大事だと思います。	A	未市民との未来像・課題の共有が市政参加、まちづくりの活性化の前提にあります。未来像・課題の共有のためには、未来志向の対話が必要で、そのためには対等な立場であることを明確にすることが重要です。施策2「信頼や学びにつながる「市民と職員の対話」の推進の中で、「未来志向の対話の推進」を掲げ、安心して対話するためのグランドルールの徹底などにも取り組みます。
158	基本方針2「市民の市政への参画」や基本方針3「市民のまちづくり活動の活性化」を実現させるには、骨子案のとおり基本方針1「市民との未来像・課題の共有」が必要不可欠です。 しかし、「市民」と「行政」、「職員」の間で自分ごと、みんなごと、考えるポイント、今しか見ない視点などあらゆる点の洗い出し及び共有が全くできていない現状がある中、骨子案では、基本方針2と基本方針3に重点を置いているように思います。 「市民」と「職員」を焚き付け、未来志向で話し合える場や描き、語らえる場の創出。特に「市民」主体で取り組める一手を望みます。	A	
159	13の施策の中で最も効果的であると考える施策は、施策2の信頼や学びにつながる市民と職員の対話の推進である。 この施策で最も重要点は、市民と職員が対等な立場で対話するという点だ。市政参加のハードルが高いと感じる原因として、実際に政策を行う職員とのコミュニケーションが取れていないことや、またその機会が知られていないこと、どのような取り組みが行われているかなどの現状が把握できていないことが挙げられる。このとき、市民と職員の対等な立場での会話の機会はそういった市政参加への抵抗感の打開策になると考える。また、ワークショップなどで対話することで、それぞれが意識している課題を共有することができ、現状としてどのようなことが課題になるかを確認することができる。そして、課題の共有や情報の開示を早い段階で行うこと、継続することで、市民の市政参加へのハードルを下げることになる。ハードルを下げることで関心の低かった世代や、様々な事情で参加できなかった市民が市政参加できると考える。	A	
160	もっと市民と対話をしたほうが良いとおもいます。意見が反映されていないことが多いように感じます。気軽に意見を言えるような機会や場所を増やしたほうが良いと思います。	A	
161	安心や信頼につながる対話がどのように行われるのかが分からなかったですが、そんな仕組みや工夫が行われることを期待しています。	A	
162	私が三つの基本方針の目的達成のために、最も効果があると考える施策または取り組みは施策2「信頼や学びにつながる「市民と職員の対話」の推進」である。職員と市民が前向きなテーマで未来像・課題等を共有することで、同じ目標に向かって対等の立場で対話することにより、お互いに協働し合えて話し合いが進みやすくなると考える。職員と市民が対等な立場で話し合うことによって相互理解ができる。対話のはじめは、職員と市民が対等な関係で話すために、お互いを理解するアイスブレイクをしてから話し始める。そして、自分の立場を理解し、同じ視点で話を聞き、自分のアイデアを一方向的に話し、否定的に捉えずに、まずは受け入れて意見やアイデアを述べる。私は、対等な立場で話すことに加えて、表情豊かに笑顔で対話することも重要だと思う。「あなたの意見やアイデアを受け入れますよ」という姿勢や心の状態から対話をはじめるべきだ。話しているうちに真剣な表情になる時もあると思うが、なるべく自然な笑顔で市民と職員が対話を心から楽しめたいなと思う。	A	
163	市民との未来像・課題の共有 市民参加をしてもらう為の具体的な目標があり、わかりやすい内容になっている。しかし、手段が抽象的で説得力に欠けるように思えた。	A	計画には、未来像・課題の共有について、施策の推進例を掲げるなど施策の具体化を図りました。
164	この様な立派な冊子が偶々にまで行き渡る工夫、例えば役所に『置いてある』のではなく、様々な用事で来られた方に『声かけしながら渡す』とか、偶々の方まで浸透した市政運営づくりの方法をとって頂きたい思います。	A	市民との未来像・課題の共有が市政参加、まちづくりの活性化の前提にあります。施策1「到達を重視する情報発信」の中で、「人づてによる情報発信の活用」を掲げるなど、顔のみえる関係で、情報共有などを進めます。
165	安心安全で話しやすい対話とは？話しやすいはわかるけど、安心安全ってなんですか？話し合いに危険が伴っているのかと思いました。	A	まずは、心理的な安全性の担保された対話、例えば相手の言葉を遮らない、否定せず最後まで聞く等のルールが明確な対話の場を想定しています。こういった未来志向の対話のルールを市民と職員の間、市民と市民の間で拡げることで、また、対話をその場限りとせず、継続的な関係の構築につながることで、対等な主体同士の信頼関係の構築につながると考えています。各種用語については、定義の必要な用語や、一般的でない用語等については、用語の凡例、注釈等を追記いたします。
166	3つの基本方針の目的達成のために、最も効果があると考える施策は、施策1の到達を重視する情報発信である。情報発信はあらゆる主体に向けて行う。なぜなら、まず興味関心のきっかけが必要であると考えられるからだ。誰かに続くことは簡単であるが、一番最初の行動は勇気が必要であったりリスクを恐れたりしてなかなか踏み出せない。また、あらゆる主体は、住民、地域の住民組織、NPO、企業や事業者、学校・大学、寺社、行政その他京都市に訪れる方や興味のある方など全ての人を含むことより、対象者を明確にしているからだ。これらより、京都市に關係する人全員で一緒に作り上げるのである。自分がターゲットであることに気付く必要があるため、単に情報発信するより、効果があると考える。	B	市政参加・まちづくりの活性化の基盤となる方針として、未来像・課題の共有を掲げており、到達を重視する情報発信は重要な施策です。参加について、より広く知っていただき、参加いただけるよう取組を進めてまいります。
167	市政参加についてなどもっとみんなに知ってもらふ必要があるなと思いました。より気軽に参加できたらいいなと思いました。	B	市政参加について、より広く知っていただき、参加につながるため、到達を重視した情報発信や、気軽に参加いただけるデザインの工夫を進めます。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
168	到達主義は大事。ただ、基本的に興味のない、受け身の市民に到達させるのは難しい。そのような市民に到達させるための手段として、屋外の活用、というのはどうか。イベントでも飲食店の屋外活用でも、まちを歩いている時にふと参加したくなるような仕掛けが欲しい。	B	
169	いろんな人に知ってもらえるように四条や河原町、京都駅などに目につくような派手なポスターを掲示してみたいと思う。	B	
170	市民の市政への参加を推進するためには、「市民が市政へ参加できる」という事を広く知ってもらうことが最も重要だと考えている。私は実際、「市政参加」という言葉を大学生になるまでは全く知らなかった。しかし、この講義を受講したことで初めて、市民でも市政に参加できるという事を知り、市政参加してみたいという気持ちが生じた。 どんなに市政参加しやすい制度が整っていたとしても、それが認知されていなければ市民は市政に参加できないのである。そこで、施策の一つに「『市政参加』出来る事を広く認知してもらおう」というようなものを入れてみてほしいと感じた。	B	
171	情報の到達と言うが、情報はとらえようと思えばとれる。目的は何か。全員が興味をもつことが必要か？目的と対象次第ではないのか？	B	自身で必要に応じて情報をとられる方や、情報にアクセスできない、しづらひ方など様々な状況があり、目的や対象に応じ、届けたい相手に合わせた情報発信の取組を進めてまいります。
172	施策1の「到達を重視する情報発信」について、具体的な情報発信手段やどのように「到達」の指標を測定するのかについてお伺いしたいと思います。	B	顔の見える関係での情報の伝達や、ホームページ、SNS等、多様な媒体や手法を用いた情報発信を行うとともに、到達度については、適宜、アンケート等により把握し、効果的な発信に生かしてまいります。
173	職員が地域に向く取り組みはとても良いと思った。市政についてよく知らない人や興味のない人とは、どのように対話を進めていくのか。よりたくさんの人を集めるにはどのようなことをするのか。	B	市政についてよく知らない人、興味のない人でも、心理的な負担を減らすことや、楽しさを感じるような、自然と参加ができる工夫をするなど、誰もが参加しやすいデザインを進めてまいります。
174	対話することで、話が深まっていったり、物事がほったらかしにならず進んでいくことにつながるのではないかと。	B	市政参加、まちづくりの活性化を進めるには、市民との未来像・課題の共有が前提にあり、市民との信頼や学びにつながる対話が重要です。今後とも対話を重視し、取り組んでまいります。
175	社会情勢の変化とともに目まぐるしく変わる情報・課題をより多くの市民と素早く共有するためには具体的にどのような取り組みが必要だと考えていますか？	B	市民との未来像・課題の共有が市政参加、まちづくりの活性化の前提にあります。到達主義の情報発信や、市民や多様な主体との対話を通じて、未来像・課題を共有し、豊で活力のある地域社会の実現に向けて、参加と協働のまちづくりを進めます。
176	第三期京都市市民参加推進計画骨子案をみるに、「協働」という言葉がキーワードになっている。街づくりに興味を持ってもらうということを前提にしたプロジェクトには、みんなで住む街をみんなで作るという部分が根幹になっている。そのため、三つの基本方針の一角として掲げられる「市民の未来像・課題の共有」という点で市と市民の意志共有を行うことは理にかなっており、共同で街を育てるとい明確な目標が見える。この理念を軸に突き進むことは京都をよりよくすることとして必要だ。	B	
177	少子高齢化や地球温暖化、社会的孤立という言葉はよく耳にしますが、多くの人はそれらを改善するべきだと考えながらも行動に移すことは少ないです。これらの課題によって自分たちの身近に起こる不利益なことをイメージできず、どこか他人事のように考えていることが原因だと思います。そのため、現状の課題を改善できなかった場合に起こりえる問題を人々に伝えることが重要ではないかと感じます。ポスターなどで市政参加を呼び掛けることには、人々の身に起こる身近な問題点を強調して示し、一緒に改善を目指しましょう！という風にすれば動き出す人が増えるのではないかと思います。	B	未来像・課題の共有のため、施策1到達を重視する情報発信に、重要な市政課題の自分ごと、みんなごと化を掲げております。京都のまちの課題をひとつごとではなく、自分ごと、みんなごととして捉え、持続可能なまちづくりが進むよう、情報発信の工夫にも、取り組んでまいります。
178	意見交流の為に市職員が出向くのと同時に、市民を集めなければならないと思いますが、どのようにして市民を呼び込むのですか？	B	市民参加の情報は、ポータルサイト「みんなでつくる京都」をはじめ、様々な手法や媒体を通じて発信し、市民に御参加いただいております。今後とも興味を持っていただけるような伝え方の工夫等を進めてまいります。
179	例えば、令和元年10月パブコメ「幼児教育・保育の無償化における認可外保育施設の取扱いに関する市民意見の募集について」が結果を公表しないまま放置されている。まずは最低限の情報発信やホームページのメンテナンスをしっかりとしてほしい。	C	各政策・施策の推進において、市民参加の制度が適切かつ効率的・効果的に実施されるよう取り組んでまいります。
180	情報の到達主義について、情報が到達することと脳内で受け止めることは違う。受け止める側の問題や責任があることも明確にすべきではないか。	C	情報の発信、受信においては、双方の協力が重要ですが、本計画は行政側（情報発信側）のなすべき観点から記載しています。市政やまちづくりの参加に関心を持っていただけるよう取組を進めます。
181	「到達」の効果をどのような評価尺度で測定するのが示される必要があると考えます。例えば「審議会等」の市民公募委員の募集は「市政参加」への大きなパスを開いているものと思われそうですが、実態として発言しないままの市民公募委員も散見されます。理由はいろいろあるかと考えますが、アウトカムとして「議事録」で市民公募委員の発言回数をカウントすれば、効果測定が可能となると考えられます。	C	市民公募委員の発言しやすい環境づくりは重要と考えており、これまでから、事務局向けの運営マニュアル、市民公募委員の交流サロンの開催等を企画してまいりました。より実践的に効果的な環境づくりにつながるよう検討してまいります。
182	市民参加の計画について、この計画を市民に伝えるということがまず初めに重要な点であると感じる。さまざまな工夫が必要であるが、若者の目にとまるようにするために私が考えたことは、YouTuberに案件を依頼するということだ。愛知県岡崎市では、有名なYouTuberに依頼しているのを見ることがある。京都市にどれだけ有名な人がいるのかわからないが、情報を伝える媒体としてYouTuberは必ず利用すべきだと感じた。	C	ターゲットを意識した情報発信や、人づてによる情報発信などに取り組む、若者も含め、到達を重視する情報発信を進めます。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
183	施策①情報発信について、発信側が受信者にしっかりと伝えられていないと意味がないと思います。私の意見としては、施策①のなかでSNSを利用するとか書いてありましたが、そもそも「第3期京都市市民参加推進計画書 解説YouTube」でさえ私が見た時にはまだ32回の視聴回数でした。若者向けにアニメ方式で作ったのかもしれませんが、そもそも32回しか見られていないのであれば情報発信できてませし、わかりやすくアニメでしたつもりが、若者どころか主婦(夫)層や高齢者にも受け入れられにくい発信方法になってしまっているのではないかと感じました。インフルエンサーに市政参加の促しを求めたり、若者が目を向けるところに発信しないと「ただ発信しているだけ」の自己満足になってしまう気がします。	C	
184	情報発信は具体的にどのような事を数値化、図示化するのですか？	C	市政やまちづくりを身近に感じていただくために、暮らしとの関わりや影響なども含めて、わかりやすく示してまいります。
185	市民意見の募集についての要項について、配布・閲覧場所に少し疑問を抱きました。より広い人々に見てもらふ必要があるのであれば、SNSに載せるだけではなく、それをどう広めるのが重要であると考えます。	C	紙媒体での配架、ホームページの閲覧、SNSの発信のほか、動画の配信や、イベントや授業等に出向いての説明など、多様な形で、市民への周知を行いました。今後とも効果的な手法を検討し、取り組んでまいります。
186	どこでやっているのかわからない。行きたいと思えるほど内容がしっかりあるのか。参加のハードルを下げると思うがそもそも認知度が低すぎるような気がする。過去参加した人はどれぐらいいるのか？やったのだとすればそこから何か市政が変わったりしたのか。	C	市政参加とまちづくりの情報は、ポータルサイト「みんなで作る京都」をはじめ、ホームページ、SNSの発信のほか、広報物による周知等様々な情報発信を進めております。頂いた意見を参考に、市政やまちづくりの情報が広く伝わり、市民参加につながるよう取組を進めます。
187	初めにこのプロジェクトについての認知度を上げないと思います。動画を見て市民の協力と知恵が必要だと言っておられましたが、自分も含めて初めて聞いたプロジェクトの名前だと思います。	C	
188	YouTubeだけではまだまだ認知度が低いと思います。どうやっていろんな人に知ってもらおうと考えていますか。	C	
189	市民参加のマネジメントを組み込むのはいい計画だと思いますが、初めて各局の方針を見た人は理解しにくいと思います。具体的にこの推進企画はどのような方法で市民の元にわかりやすく伝えるのですか？	C	
190	僕は今回この話を聞いて、2つ疑問が浮かびました。それは、このような素晴らしいアイデアを知っている市民が少ないということです。どのようにこの政策を広めていくのですか？ また、市民のその政策への参加動機や興味をどうやって引き出すのですか？	C	
191	市民参政の機会は設けられているが、どのようにそのことを伝えていくのですか？	C	
192	具体的にどのようなメディアを使って情報発信をしているのか知りたいです。	C	
193	この授業でこのプロジェクトがあるのを初めて知ったが、京都市民に対してどんなふうに応援しているのか、できているのか知りたい。(多分親もこのプロジェクトは知らないと思う)	C	
194	こうやって初めて知ることが多い。発信して調べてみるとわかるが、普通に生活しているとなかなか知ることがない。確実に京都市が行っている市民参加をより詳しく伝えていくべきだ。伝える方法がないことが問題だと思う。	C	
195	IVの推進施策の基本方針1の施策2, 3に「市民と職員の対話」と「多様な主体の対話」の推進があるが、この新型コロナウイルス感染症が流行っているなかでなかなか直接の対話は難しいと思うが、安心安全を意識して対話を行うとなるとどのくらいの規模で行うのか、Zoom等のリモートで行った場合に非対面だからといって規模が大きくなることで一人一人とのコミュニケーションが薄れてしまう可能性もあるのではないかと感じました。	C	目的や必要性に応じて、対面やオンラインの活用による対話を適切に使い分けていくことが重要であると考えています。オンラインでは、参加者の習熟度や環境等に配慮し、丁寧なコミュニケーションに留意するなど、安心して参加できる対話の場づくりを進めます。
196	一度くらいは政治に関わっている人と話す機会があれば理解が深まると思う。自分の考えが実現するためにはどのようなリスクが伴うのかか話したい。	C	市民と市職員の対話の場づくりなどを通じ、市政を身近に感じていただけるよう取組を進めます。
197	(学生が)京都市役所などに実際に行き、職員とディスカッションする。	C	広く市民の方が、未来志向の対話を求めて来庁していただけるよう、開かれた市役所づくりを目指してまいります。
198	この計画の存在の認知が必要だと思います。京都ラジオやテレビ、駅のホームでの市民参加を推進するような広告の発信が必要であると考えます。	C	様々な機会や媒体を通じて、到達を重視する情報発信を進めてまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
市民の市政への参加の推進(基本方針2)			
199	若い世代の市政参加の推進、主に子育て世代や学生に対して市政参加をよびかける内容であるが、若い世代の市政参加は重要かつ難題であると捉えており、社会人、学生などの若い世代に向けた活動はとくに次世代の地域社会の活性化に向けて重要である。しかし、子育て世代の市政参加については推進する必要はあるのだろうか。子育てに勤しむなか、労働をし、育児もろくに取れずにいる人は、まだまだ多い現状がある。そんな中、市政参加への参加推進は負担になると考える。 しかし、子育て世代にとって、これから親子が生活する地域が住みやすい、より良い街に発展していくために市政参加をし、自らが地域の一員として活動することは、各家庭がより良い暮らしをすることにつながる。そのため、手一杯の子育て世代にも優しい市政参加の方法を見出すという工夫をする必要がある。なるべく現場へ赴かずとも参加可能で、短時間で参加できる内容のワークショップや、自宅でも閲覧可能な情報発信などあることが好ましいと考える。若者の市政参加ではなく別項目で子育て世代の推進計画を練る必要があると考えるため、「次世代につながる市政参加の推進についての取り組み」の項目が工夫することのできる項目であると考えている。	A	当事者である方がその市政の分野に意見を言っていたことは重要です。 職員による現場に出向く取組や、相手の事情に合わせたオンラインの活用等、状況や必要性に応じ、対話の手法を工夫してまいります。また、誰もが参加しやすいデザインの中で、必要に応じて短時間や少しだけの参加ができるような、幅のある参加の形態の工夫を盛り込みます。 「次世代」は、子ども、学生、子育て世代、若手社会人世代など多くの意味を含み、それぞれの政策・施策でターゲットとする層に届きやすい工夫を進めてまいります。 市民参加の裾野の拡大のために、参加のハードルを下げることや、参加に楽しみや気軽さが生まれるような、誰もが参加しやすいデザインを工夫してまいります。
200	市民参加型のまちづくりを推進するものではありませんが、意識の高い方や、専門家ではない市民だったとしても、ある程度専門的知識を有する方が集まり、そういった一部の方々から市民参加になっているように見えます。そういう市民参加に率先して参加しない市民も身近な生活の中で、いろいろの意見は持っていると思いますので、そういった意見を吸い上げる方法や、意見を言えるハードルを下げる工夫、また、このパブコメの冊子もそうですが、文字が多く、読むのも理解するのも大変で、パブコメに意見を出すこと自体のハードルが高いと感じますので、ご検討いただきたいと思います。	A	
201	施策5 誰もが参加しやすいデザインが「市民の市政への参加」という目的のために一番重要な取り組みだと感じました。参加しないことには何も始まらないし、様々な立場の様々な人達が参加し、政策を形成していくことが京都市のための政策作りには欠かせません。今はそうでもありませんが、これまでのわたしは市政参加と聞くと「難しそう」「専門知識がいるのかも」というイメージがあり、私が参加しても意味がないのではないかとこの思いがありました。市政参加の現状や課題を知る機会があり、むしろ私のような人こそ市政参加をした方がいいのではないかと気づくことができましたが、かつての私が持っていたイメージを抱いているひともいるかもしれません。市民の誰もが市政参加の権利があり、それは京都市のためにもなるのだということを知らせてうえて「施策5 誰もが参加しやすいデザイン」を実行し、市政参加の輪を広げていくことが今の京都市にとって必要で、効果的なものだと思います。	A	市民参加の裾野の拡大のために、参加のハードルを下げることや、参加に楽しみや気軽さが生まれるような、誰もが参加しやすいデザインを工夫してまいります。また、地域や学校、若者の活動を支援する団体等と連携し、若いうちから地域や市政、社会課題を身近に感じていただけるよう、学びの場づくりを進めます。
202	私は市外在住ですが、自らの住む自治体の施策や課題等について、ほとんど何も知りません。また、どのような市民参加の機会があるのかも知りません。これは、行政側の発信の問題だけではなく、私はその情報に能動的にアクセスしていないことも原因だと思います。共働きで子育て中のため、平日は時間がなく、休日はできるだけ子供達と過ごしたいのが、正直なところなんです。なので、なかなか市民参加と言われてもハードルは低くありません。一つは、市政情報を市民に到達させることも大切ですが、市民が自らアクセスしやすくなるようなインセンティブを働かせることも重要ではないかと思えます。その上で、時間に余裕がなくても参加しやすい仕組みを工夫するのが良いと思います。一方、参加には責任を伴いますが、参加のハードルを下げることで、無責任化しないようにすることも大事だと思います。	A	
203	参加のハードルを下げる為にどういったことを行おうと思っているのでしょうか？	A	職員による現場に出向く取組や、相手の事情に合わせたオンラインの活用等、状況や必要性に応じた対話の手法を工夫してまいります。 また、誰もが参加しやすいデザインの中で、ユニバーサルデザインの推進や、時間帯、開催場所・方法の工夫などにより、参加しやすくするとともに、心理的な負担感を減らすことや、楽しさを生み出す工夫などを進めてまいります。
204	目の前のことを片付けるのに必死で、先のこと考える余裕がない。その中でオンラインのパブコメの場に挑戦してみた。	A	
205	子供や学生、社会人、子育て世代など自製代の社会を担う人への市政参加を推進することが書かれてありました。若者が市政参加することはとても大切です。そのため、より効果的に市政参加に取り組んでもらう方法として、近年流行っているSNSを利用して行うと良いのではないかと考えます。会場などに行かず、SNSから市政参加できると時間も短縮でき、若者の身近な存在となれるのではないかと考えます。	A	
206	出入り自由な素敵な空気感のあるワークショップにしてほしい。	A	誰もが参加しやすいデザインの中で、必要に応じて短時間や少しだけの参加ができるような、幅のある参加形態の工夫を盛り込み、推進してまいります。
207	「市政参加」や「まちづくり活動」についての内容はわかりやすいけれど、それに参加してどんないいことが出来るのか、どんなふうに変えていくことが出来るの？イメージしにくかった。	A	施策6「協働の成果の手ごたえ」で、次につながる、人から人へのつながり市政参加のために、御意見や御提案の手ごたえを感じていただけるよう取組を進めてまいります。
208	市民が市政参加しやすい環境を整え、様々な年代の意見を取り入れるための取り組みを行うことを基本方針に掲げていたが、実際私達が生活して「市政参加」という言葉や取り組みはまだ浸透していないように感じます。学生などの若い世代の意見を取り入れるためには、中学や高校の授業プログラムの中に市政参加と取り入れて認知度を上げることが必要だと思います。	A	大学や学校の授業との連携の取組について、施策7「次世代につながる市政参加」において、施策の推進前に、社会課題や地域課題への関心を高める学びの場づくりを盛り込みました。 シチズンシップ教育やSDGs教育の推進、大学・学校等と連携した学びの場の提供など様々な取組を進め、次世代の地域社会を担う若い世代の参加を推進してまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
209	次世代につながる市政参加には「推進」するだけでなく、ある程度強制的に市政参加の存在を知らせることが必要なのではないかと感じた。理由としては、学生の視点から、私自身、大学の授業において市政参加について習うまではそのような取り組みが行われていること事態を知らなかったからだ。小・中・高・大学の授業などを通してその存在を知らせていくことで、市政参加の存在を広めていけるのではないかと考えます。	A	
210	あらゆる対象に情報発信を行うことは基本的で大切なことであり、到達主義(届けたい対象にしっかり伝えること)を重視することを含めても、とても良い施策だと思います。そこで私が提案するのは「小中高などの教育機関での情報発信」です。小中高の授業の一環として京都市について考えたり、情報発信を行う時間を作ったりするのが良いと思います。なぜかという、実際に私が学校の授業がきっかけで京都市について考えたり地元について考えたりする機会が増えたからです。こうしてパブリックコメントとして意見を述べられているのも、それらのおかげだと私は思っています。学校で習ったことや触れたことは意外に覚えていることも多く、大人になって何かをするときの糧になります。何より小さいころから京都市(地元)について考える習慣(機会)を作ることは、本人にとっても良いと思います。自分が住む場所について考えることは自分のことについて考えることに繋がるからです。こうして京都市について考える習慣をつけることは、自分の意見を持つことに繋がり、それがやがて市民参加の際に役に立つと思います。	A	
211	施策2の「信頼や学びにつながる『市民と職員との対話』の推進」が最も効果があると考えます。なぜなら、これからの未来を担うのは子供たちであると考えから。高校や大学などで職員が講演を行うことで、3つの基本方針の「市民との未来像・課題の共有」で、市民と行政が課題や未来像の共有ができるということが実現でき、また、「市民の市政への参加の推進」で、次世代につながる施策を子供たちに関心を持ってもらえることで実現でき、さらに、「市民の街づくり活動の活性化」で、地域や社会を良くするための活動を知りきっかけ作りにもなると思います。	A	
212	大学の授業で市民参加についてレポートという形で意見させた。大学や色々な学校の授業との連携は重要である。	A	
213	若者の市政参加のために、学校やその他の教育機関と連携して、市政を考える授業や講座の開催、そうした取り組みが推進されれば、と思う。	A	
214	並行して、子どもたちには教育を通じて素養を育てることが有用だと思う。	A	
215	若者の参加は必要不可欠でその大切さを学校で教えていかなければならないと思った。市政や自身の街の取り組みなどに参加する大切さをしっかり授業でやらなければいけない。	A	
216	小学校の段階から 共に作り上げていく社会教育が必要だと感じます。	A	
217	小さい頃から学んでいければ興味が湧くかも	A	
218	授業に取り入れていくことによって自分達も参加出来る事を今回初めて知ったのもっと他の学校でも授業に取り入れるべきだと思う。	A	
219	中学生が取り組みやすいような雰囲気にすることが大切だと思う。なかなか参加しないと思うので、このように学校でまちづくりに関することについて考える時間があれば良いと思う。	A	
220	普段から自分から参加しない人が多いと思うので学校などで授業のコマを作って広めれば良いと思う。	A	
221	なかなかまちづくりのためのイベントの参加がなかなかできないので、学校で授業として取り入れたらいいと思った。	A	
222	京都市という土地の特性上、学生が多く住むまちであるので、学生という資源を活用しつつ、市民や職員が大学機関と共同していくべきだと感じた。学生の参加のハードルを下げるためには、大学等での支援体制も重要であると思った。	A	
223	京都には沢山の学校があるので、今回の様に学校と連携した取り組みを進めた方がより現実的かつ効果的だと思う。そうする事で、多くの学生からの意見を集めることができ、学生にとっては市政参加の経験にもなるので良いと思う。	A	
224	この市政参加の施策7がよいと思います。子どもや学生をはじめ、社会人、子育て世代など、次世代の地域社会を担う若い世代の市政参加しやすい現場を作ると、どんどんよってきて参加すると思います。	A	若い世代の市民参加を進めるために、行政だけでなく、地域や学校、若者支援団体との連携による学びの場づくりを行うなど、効果的に推進してまいります。
225	若い世代への裾野の拡大はとても大事だと思う。それを行政だけでなく、様々な若者支援団体や学校やキーとなる人々と共に取り組むことが、効果的なのではないか。	A	
226	中学生でも参加できるということを知って積極的に参加したいと思った。	A	
227	企業などと連携する場合、Win-Winの関係が築ける道筋はお考えですか？	A	SDGsを背景に、社会課題に関心を寄せる企業や学生も増えています。施策8協働による市政分野の拡大と新たな挑戦に向けて、社会課題をとりあげ、企業等の強みとも結びつけられるような新しい市民参加、公民連携につながる取組を掲げ、進めてまいります。
228	コロナで事業の限界や行き詰まりが見えてくる中、新たな事業展開を考える必要があるが、ニーズがあるところにビジネスの種がある。社会の課題はその宝庫だと思うので、行政との連携は、社会課題の解決だけでなく、新たなビジネスの創出にも役立つと考える。	A	
229	市役所と組んでソーシャルな仕事をしたいです。	A	
230	具体的に大学や企業とどのような政策を出していくか教えて欲しいです！	A	企業や大学と連携・協働をさらに進め、施策7「次世代につながる市政参加」の推進や、施策8「協働する市政分野の拡大と新たな挑戦」に取り組み、協働による効果的な市政運営につなげてまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
231	市民参加の制度があることで、市政の透明性が高まり、市民の入り口が確保され、信頼につながるものだと思います。	B	市民参加の制度が、幅広い市民の方の市政やまちづくりへの入り口となるよう、適切な運営や関わる職員の育成を進めてまいります。
232	はじめる。つながる。広がる。の3つの輪を意識して、行政活動の施策の立案をするというのは、市政参加制度への認知度や参加率の低迷といった最も大きな課題を意識しているので、とても共感できた。	B	行政の各施策・事業について、参加を求めたいターゲットや、参加の段階と目的を意識しながら、効果的な参加につながるような行政運営を進めてまいります。
233	こう言う活動をするのは政治などに興味を持つきっかけにもなるし、ちゃんとまちづくりについて考えられていてとてもよかった。こういう事業をもっと知ってもらうように、興味を惹かれるようなことを多くすればより良くなるのではないかなと思った。	B	市政に関心を持っていただけるよう、身近な地域課題や市政課題に関心を持っていただくきっかけづくりや、誰もが参加しやすいデザインの工夫などに取り組んでまいります。
234	施策4に関して: 具体的にはどのような制度が考えられるのか。「常に市民の知恵が反映される制度」とはかなり大きくでたな、という印象がある。「充実」とはどのようなもの、今どのような制度があるのか分からない人も多いと思うので、まずは例示として「市民の声」がどのように反映されることがある、というストーリー的な形で広報いただければ、施策5の参加のハードルを下げる、という点にもつながるのではないかな。	B	市民の意見の反映やその成果を発信するとともに、政策形成のどの段階でどのような参加手法があり、どのように政策に反映されるかを分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。 市民参加の参加方法や仕組み、市民の活動等を掲載したポータルサイト「みんなで作る京都」ホームページについて、計画に掲載いたします。
235	市政参加の仕組み自体をより多くの人に認知してもらうための様々なプロセスについて、詳しく記してはいるかがでしょうか。そうすることで市政参加に対するイメージが湧きやすくなり、より参加する市民が増えるのではないかなと思いました。	B	
236	現計画策定後の主な取り組みとして、対話型パブリック・コメントの推進によって多くの意見が集まったことは京都市ならではの成果といえる。もっとパブコメを市民に知ってもらう機会をつくり、意見を出してもらい、またまちづくりに関わるきっかけづくりとして、講演会や研修など取り組んでほしい。	B	今回のパブリック・コメントについては、向う対話しながら意見をお聴きする対話型パブリック・コメントや、説明動画の配信を行うなど、親しみやすいものとなるよう取り組みました。 今後ともパブリック・コメントをはじめ市民参加制度について、適切かつ効果的・効果的な運営を進めてまいります。
237	パブリックコメント自体が知られていないと思います。情報発信の方法を改善した方がよいと思います。	B	
238	市民の意見を取り入れるワークショップはとてもいいと思う。特にパブリックコメントで幅広い意見を取り入れるのはどのように行なっているのか深く知りたい。	B	
239	もっとパブリックコメントを親しみやすいものにすれば直接政治に繋がると思った。	B	
240	私は今回の計画には、賛成である。というのも、市民が、主体的に行政に参加しやすくなることで、若者の行政参加数の増加が見込まれるからである。近年日本では、若者の政治離れなどと呼ばれるほど、今後の日本を担っていく私たちが世代の選挙投票割合は低く、全体の三分の一以下であると言われる。今後の日本を担っていく若者が今後を左右する選挙に参加しなければ、行政は、いい方向に向いていかないと私は思う。これは京都市も例外ではない。今回の計画により、行政への市民参加をよりしやすくとともに、若者の行政参加も増加するのではないかと考えている。	B	若者が市政とのつながりを身近に感じていただけるよう、施策7「次世代につながる市政参加」を掲げており、シチズンシップ教育をはじめ、社会課題や地域課題への関心を高める学びの場づくりなどに取り組んでまいります。
241	地域に誇りを持っていない人や貧困でお困りの方や外国籍の方にも、市民参加を広げてほしい。	B	京都市に関わるあらゆる方々が、地域に誇りをもって、参加と協働による持続可能なまちづくりに取り組んでいただけるよう、参加の裾野の拡大に取り組んでまいります。
242	施策1に関して、市区町村で行われている施策、イベント等、あるいは調査結果などの情報をもっと気軽にみられるようになればいいのだと思う。特に若い世代にとってはSNSが情報を得る手段としては一般的である。また特に中高生の間では教育現場から情報を得るといことも主流である。したがって飲食店、ショッピングセンター、教育機関など様々なところでポスター設置などによる情報発信が重要だと思う。また役所から発信される情報は正直どれも堅すぎる気がする。したがって中高生向けの分かりやすいホームページの作成、ワークショップなどの様子などの発信、またInstagram等で市政にまつること以外の身近な話題、つぶやき、市長の一言など、若者がひきつけられるような発信の仕方を模索することも必要なのではないかなと思う。例えばクリエイターの方とホームページ、市はこんなことやっていますって感じの動画作成&発信など。とにかく若者を含め多くの人に市政を知ってもらうためにも無意識に広告などに触れる機会、場所造ることが大切だと思う。	B	重視する視点2に「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」を、施策5「誰もが参加しやすいデザイン」を掲げ、「楽しさ」からはじまり、主体的、持続的に参加してもらえるような仕組みやデザインに取り組んでまいります。
243	現在の市民参加について、具体的な活動としてワークショップや市民公募委員、市長への手紙等があるが、ワークショップや意見交換の場はザ！行政という感じがして安易な気持ちで参加ができない。また、ちゃんとした意見を言わないといけないという雰囲気や壁を感じる。	B	楽しみながらや何かのついでに参加できるハードルの低い市民参加のデザインを進めてまいります。
244	市民の主体性を引き出し、且つ継続して関わってもらうことが意味のある協働の鍵となるが、そのためには「楽しさ」が必要。言い換えると、「参加することが楽しい」と市民に感じてもらう限り、成果が出る協働を実現することは難しい。	B	重視する視点2に「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」を、施策5に「誰もが参加しやすいデザイン」を掲げ、「楽しさ」からはじまり、主体的、持続的に参加してもらえるような仕組みやデザインに取り組んでまいります。
245	「はじめる」のところで挙げられている「誰もが参加しやすいデザイン」という施策が良いと感じた。市政参加と聞くと、市民は、簡単に参加できるのか、どこで何をしているのかわからないといったマイナスなイメージを持っている人が多いと感じている。そのため、市政参加とはどのようなものでどのように行われているのかというようなことをわかりやすく親しみやすいデザインで表現することによって、よし多くの市民に参加してもらえるようになるのではないかと考える。	B	
246	楽しみや気軽さが生まれるデザインにするという考え方はとても良いと思います。	B	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
247	コロナ禍の社会においてはオンライン上での広告や発信、zoomなどのオンライン媒体を駆使した説明会をするなど、効果的であると考えます。	B	市民参加、協働の取組も、デジタル化やICTの活用など効率的・効果的な手法を取り入れ、推進してまいります。
248	「誰もが参加しやすいデザイン」は、多くの市民(子どもからお年寄りまで)の方が京都市の取組を知るきっかけにもつながると思ったので、ぜひ推進してほしいです。	B	市民の参加する対話の場等で託児を設置するなどの取組を推進していますが、今後も、さらにお子様をはじめ幅広い世代の方が、参加しやすく、楽しんで、学べるような場の提供を増やせるよう、取り組んでまいります。
249	小さい子どもと一緒に参加できるようにしてほしい	B	
250	子供の目線と大人の目線では見えるものが違うし考えることも違うと思います。だからこそ子供が関わるべきだと思いました。	B	
251	もっと若い世代のみんなが市政参加をすれば社会は変わっていくと思った。	B	幅広い年代の市民参加が、社会の課題解決や、より良いまちづくりにつながるよう計画を推進してまいります。
252	市民参加について詳しく知らない人がたくさんいる中で、「はじめる」という分野が最も重要であり、手段にこだわるべきであると考えました。	B	現時点あまり興味が無い方や、興味があっても忙しくて参加できない方が参加しやすい、誰もが参加しやすいデザインを工夫してまいります。
253	こういうことにあまり興味を持っていない人がほとんどだと思うので、興味を持ってくれるようにもっと工夫をするべきだと思った。	B	
254	6頁「施策4」に「市政参加は…市民の権利であり」とある。パブリックコメントを出すことも「市政参加」の大きな方法だと考える。色々な事情で文字媒体を介しての情報の受け取りや発信が難しい人の「市民の権利」が完全に行き出される仕組みをどのようなプロセスを通して構築しようとするのかが、市民に分かるように示される次期計画であって欲しい。	B	様々な御事情をお持ちの方になるべく多く参加いただけるような、デザインの工夫、ユニバーサルデザインの考え方を推進してまいります。
255	参加できれば意見も言えて、市政のことも知れて一石二鳥だと思った。ただ参加しにくいという面も共感できた。それを解決するために、参加しやすいデザインにする、仕掛け学を使うというのは興味が湧いた。具体的にどんな仕掛けにしてどう参加を促すか知りたい。	B	市民参加には、行政の政策やまちづくりに自分が関与できるという権利行使としてのメリットだけでなく、社会的な学びや有益な知識を得られるという自己啓発的なメリットもあります。一度参加したことで、メリットを感じて継続的な参加につながるためにも、最初に参加しやすいデザインや手ごたえを感じやすい仕組みづくりを進めてまいります。
256	「誰もが参加しやすいデザイン」忙しい中、わざわざボランティアで参加するには、魅力ある内容、参加しやすいやり方を工夫する必要があると思う。	B	
257	市民が参加しやすい時間帯とありましたが具体的にいつぐらいの時間帯なのか単純に気になりました	B	呼びかけたい対象、ターゲット層によって、参加しやすい時間帯は変わると考えます。ターゲットに合わせた参加の時間帯や手法を工夫するなどにより、参加の裾野拡大につなげてまいります。
258	市政参加するのにワークショップや市民公務委員を登用、パブリックコメントが挙げられていましたが、参加する人は政策に関心がないと参加できないように感じる人もいたりすると思います。なので簡単に参加できる案はありますか？	B	より多くの方に市民参加していただくため、現時点あまり興味が無い方や、興味があっても忙しくて参加できない方に働きかけていくとともに、既に参加されている方から、新たな参加者を呼び込んでいただけるような、市民参加の輪を広げる取組も推進してまいります。
259	誰もが親しみやすいデザインとはどんなデザインなのか気になった。	B	また、学校の授業との連携など、日常生活の中、生活動線の中で参加できる仕組みやデザインを推進してまいります。
260	地域住民組織、地域の市民活動団体や事業者、学校、大学等の各主体の交流と協働を促進することは重要であると考えます。しかし、これらの数は多いため交流や協働が大変であると考えます。また偏りがあると考えます。私は看護学科から今の地域社会も学べる学科に編入した。看護学科では、学ぶことは看護に関する専門科目がほとんどで地域社会を学ぶことはめったになかった。京都市内の大学にいるが、京都市市民参加推進計画の存在すら知らなかった。これらより、同じ大学にいても、伝わる人が限られたり、同じ人ばかりが、京都市市民参加推進計画に詳しくなったりすると思う。その結果が、無関心な人や人任せにする人が生まれたり若者の選挙に対する姿勢が不十分であったりすると思う。	B	
261	どのようにして、手応えを共有するのか、市民と行政の協働は、どのような方法で行うのか、市民の意見を今のところどこまで行政に取り入れることが可能なのか、どのくらい市民から意見を受け入れる予定なのか、具体的に教えてください。	B	対話や協働の実践の中で、共に学びや信頼を構築し、手応えを共有するとともに、ワークショップやパブリック・コメントなどの結果や協働の成果は、ホームページ等により情報発信いたします。
262	協働の成果や手応えの共有にはどんなものを使うのですか？(アプリなのか、それとも市役所に張り出すのか、ホームページに掲載するのか)	B	
263	どうやって市民がこの施策に賛成してくれるのか？メリットは？	B	短期的なメリット(仕事や学校で聞かれる、求めている情報が得られる、楽しさを感じる、人とのつながりができる)と長期的なメリット(自分たちが暮らすまちが良くなる、社会や様々なことを学べる)の両面から参加の裾野拡大を推進してまいります。
264	市民参加についてメリットが伝わる方がよい。子育て世代のつながりづくり、企業にとって次世代人材の確保、高齢者には健康増進・生涯学習になるなど。	B	施策6「協働の成果の手ごたえ」で、次につながる、人から人へつながる手ごたえを感じていただけるよう取組を進めてまいります。
265	実際に市政やまちづくりに参加した市民が、自分の意見が反映されると実感しやすいような、直接的かつ明瞭なフィードバックがなされると、継続的な参加につながるのではないかと思います。	B	
266	私の日々の生活は、私を取りまく制度や政策・施策を土台として成り立っています。「市民参加」を推進すると、私の日々の生活がどのように充実したものになり、私が住み続けたい京都市となり得るのかが大きく示されれば、コロナ禍を乗り越えるための希望につながる計画となるのではないのでしょうか？	B	
267	本件計画では、特段市民参加に対してメリットが示されておらず、市民参加したい！という誘因がないように思われます。今後どのような点を誘因として市民参加を進める予定でしょうか。	B	
268	これをするに具体的な意図は何ですか？	B	
269	「市民の方のこういった声によって、行政はこう変わりました！」という具体的なアピールがもっと必要ではないかと思う。	B	



番号	意見要旨	種別	本市の考え方
270	施策6について 人事異動時に引継ぎが行われないために、進めてきた活動が継続できないことがある。 引継ぎできるように活動の記録や積み重ねを残すことが必要なので、継続的なものになるためにプロセスや成果を記録し積み重ねて手ごたえを実感できるようにすることは、とてもいいことだと思います。今まで、やってきたことも掘り起こせばと思います。	B	市民参加、協働の活動がなるべく個人に留まらず組織的で持続可能なものとなるよう取り組んでまいります。
271	市政に参加しやすい体制、機会を充実させることも大切だが行政側がどのように市民の意見を取り入れたのかあるいはどのような点が至らなく市政に反映されなかったかをより市民に分かるよう示すことが必要であると考えた。なぜなら、自らが市政に参加しているという実感が持て、参加していない人もどのようなことが議論されるのかなどのある種基準のようなことも分かり参加しやすくなるのではないかと考えたからである。	B	市民の意見の反映やその成果を発信するとともに、政策形成のどの段階でどのような参加手法があり、どのように政策に反映されるかを分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。
272	市民参加については、ワークショップ等の手法論に依るものではなく、実質的な取組につなげていただきたい。	B	対話や協働の実践の中で、共に学びや信頼を構築し、手応えを共有するとともに、政策につなげてまいります。
273	1頁「重視する視点3 協働による…挑戦」とあるが、「市民参加」自体が「コロナ禍」という事態で後退することなく、少なくとも条例で定められていることを市民・住民・職員が知り、活用することができていることを担保する仕組みづくりが必要である。そのために、現状の実態を検証し、結果が共有されることが必要であると考え。 「トライ・アンド・エラー」は「エラー」を直視しなければ、単なるやりっぱなしに転化する。	B	重視する視点には、計画期間に目指す指標を設定するなど、実効性を高めます。また、計画の推進に当たっては、市民参加推進フォーラム等による進捗管理とともに、計画・実践・評価・見直しのサイクルの中で新たな取組を生み出すなど、効果的に進めてまいります。
274	学校で実際にきてもらいそして生徒もグループ分けして発言しやすいようにしたいと思う。	B	大学や学校の授業との連携の取組について、施策7「次世代につながる市政参加」において、施策の推進例に、社会課題や地域課題への関心を高める学びの場づくりを盛り込みました。次世代の地域社会を担う若い世代の参加を推進に向けて、効果的な手法を取り入れ、推進してまいります。
275	学校の授業でとり入れたり、中学生が利用しそうな場所にもパンフレットを置けばいいと思う。	B	
276	いろんなところでこうゆう授業をしたりSNSで発信して行けばいいと思う	B	
277	実際に働いている人が学校に行き授業したりする。	B	
278	京都市の中学校の廊下や地下鉄にポスターを貼ったりする。	B	
279	出前授業を頻繁におこなって小学生のうちから考える機会を作る。	B	
280	そういうことをしっかり考えられる中学生がいることが前提だからまず教育から変えないとダメだと思う	B	
281	若い世代特に学生は市民参加について知っていることが少ないと考える。私が中学、高校生の時は全く知らなかった。若い世代のためにと考えるなら学ばせるためにもホームルームとかで触れる必要があると考える	B	
282	授業の一環として取り入れるのが1番早いと思う。今はできないかもしれないが、一人一人の意見を出してグループセッションをするのがいいと思う。	B	
283	「市民の市政への参加の推進」これは、非常に重要なことだと考えます。外国と比べると、日本人(特に若者)は、政治と自分には関係ないと思ってしまうように思います。選挙の投票率も低い。「どうせ、自分が行動したところで何も変わらない」と考えてしまうからです。しかし、何も考えていないわけではないと思います。何か行動を起こしても、変わった経験がないから、行動を起こすことを無駄だと考えてしまうのだと思います。そこで、学生のうちから、政治を自分事として考えることが重要だと考えます。施策7から、学校で、自分が住む(学校がある)市について学ぶ機会があれば良いなと思いました。また、施策8から、施策や事業を実施する際、どのような部分に市民意見が反映されているのかを、市政に参加した市民にはもちろん、参加していない大勢の市民にも知らせることができれば市政参加の推進に繋がるのではないかと考えました。「自分の行動が変化をもたらす経験」が重要だと考えます。	B	
284	基本方針の施策の中で施策7の次世代につながる市政参加が一番大事であると考え。このことが欠けてしまうと、市政参加をする人数が増えなくて盛り上がり欠けてしまうことになる。ましてやこのようなことが起こってしまうと参加者の年齢層に隔たりが起きてしまうことになりかねない。これらのことは市政参加のみならず文化、スポーツなどの分野でも言えることであると考えた。	B	
285	基本方針2の施策8の「協働する市政分野の拡大と新たな挑戦」についてだが、市がまだ取り組んでいない課題に対し市民が先駆的に取り組んでいる活動を評価する仕組みが、非常に良い仕組みであると感じた。理由として、活動を評価された市民は、また評価してもらいたいと思うようになり、他の先駆的な活動にも取り組もうとするモチベーションが発生するのではないかと感じるからである。	B	現時点あまり興味がない方や、興味があっても忙しくて参加できない方に働きかけていくとともに、既に参加されている方の活動や先進的な取組を紹介するなど、見える形で発信し、新たな活動が生まれやすくなる取組を進めます。
286	京都市はSDGs,SDGsというが市民に具体的に分かるように発信する必要がある。もっといろんな場面で発信し、意見を聴く場を作ってほしい。市長やマスメディアでの発信も強化する必要がある。	C	多様な機会や媒体を通じた情報発信や、市民フォーラム、ワークショップの開催など市民との対話により、SDGsの実現、持続可能なまちづくりに向けた取組をさらに進めてまいります。
287	「市民参加」と「財政」はこれまであまり関連付けされていませんが、現在の京都市財政の危機的状況からは、避けて通ることはできないと思われます。少なくとも財政問題に関する客観的事実の認識の記述は必要です。できれば「市民参加と財政問題はどうかかわるのか」や、「市民参加の視点から財政問題をどう扱うのか」といった点に関する言及が、更には、個別の施策や計画に対するパブリックコメントだけではなく、予算や決算に対するパブリックコメントの実施などの新たな取組が必要と思われます。	C	新型コロナの課題や、厳しい財政事情など、困難な社会情勢であるからこそつながりや協働が大事です。様々な市政参加制度の中で、未来像・課題について、市民の皆様と共有し、市政運営を進めてまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
288	お金がないから市民を頼るのはおかしい。しかし、お金がないからこそ一層市民と共に歩む姿勢は必要だと思う。そうした行動が産まれるような計画にしてほしい。	C	
289	「市民の市政への参加」の方法/パスの1つに「市民公募委員」となることがあると考える。ところで、その募集にあたって、「選考方法」に示されている内容/基準とは異なった選考が行われている事例(例えば、「元京都社会福祉会館の活用に係る契約候補事業者選定委員会の市民公募委員の募集」とその選定)がある。募集時に「選考方法」と基準を実態に即して明示することが、公正・公平な運用の第一歩であると考えている。従って、次期計画においては、「市民公募型」募集時のルールも含め、検討されることを望みます。	C	附属機関等の参加手続をはじめ、市民参加制度の適切かつ効率的・効果的な運営を進めてまいります。
290	冊子7頁「基本方針3」「施策10」に「多様な主体が協力することが求められている」とある。「協力」と「動員される」とは全く異なったことであろう。協力する目的や方針が検討される審議会等の構成メンバーのほとんどが業者団体の代表と地域団体の代表であるものをしばしば見かけるが、構成メンバーのあり方も次期計画では検討の対象としてもよいのではないのでしょうか？	C	
291	施策7について 行政区を横断した活動も意識をもってつなげていく取組も含めてほしいです。	C	各区の個性ある取組とともに、組織や分野、地域を越えた多様な主体の協働の取組を進めてまいります。
292	行政に積極的に関わっている市民＝プロ市民というイメージが払拭できない。	C	市政に積極的に関わっていただく方の裾野が広げられるよう、参加のハードルを下げ、楽しさや気軽さも生まれるような、市民参加の手法やテーマの工夫等を進めてまいります。
293	いくつかの「計画」を策定している担当者の方から、「パブリックコメントを出して下さい」とお声かけ頂いたことがある。一方、区役所の冊子が並んでいる。いくらひまでも、全ての冊子に目を通して意見を何か書ける程度に読み込める市民・住民は、そんなには多くはないと思う。市役所レベルでの市民・住民への情報の到達と市民・住民の声を各計画策定へ反映させるための新たな方策を検討することも次期計画の中で検討されてもよいのではないかと考えます。	C	パブリック・コメントは、意見の多寡によっては是非を問うものではなく、幅広く多様な意見をお聴きして、政策に反映するためのものとして、適切かつ効率的・効果的に実施してまいります。
294	パブリック・コメントは、対話型など内容に応じて方法を工夫することも大事。意見数の多少については、組織票による歪みのおそれもあるので、カウントの取扱いを見直してはどうか。	C	
295	パブリックコメントの運用について、いくつか課題があると感じている。一つには、パブリックコメントの目的を勘違いしている傾向が見られること。市会の議事録を見ても、その数や賛成・反対を問う質問が多く、目的が理解されていない様子が伺われる。行政側でも、数だけで評価する傾向が強い。多様な視点・意見を確保する目的からすれば、同じ意見が多くある場合よりも、多様な意見があった場合を評価すべきであり、特に行政側が気付いていなかった意見が寄せられた場合に、パブリックコメントの効果が最大に発揮された、と評価される。議員の方をはじめ、市民の方の認識を改めていくのは難しいことではあるが、各計画・事業の担当部局からではなく、市民参加推進担当部局から適宜、パブコメの意義・目的を伝え続けること(各計画・事業の担当部局から伝えると、各計画・事業に対する評価と、パブコメの評価が混じってしまうので)、パブコメで新たに寄せられた視点の公開を癖づけることといったことは直ぐにでも着手できると思う。	C	
296	パブリックコメントについて 宝塚市には意見を集めて、結果を公表するだけでなく、パブリックコメントの運用について市民委員がチェックする仕組みがあります。運用についての透明性を高めることは、パブリックコメント数が多い京都市にこそ必要な仕組みだと思っておりますので、ぜひ導入を検討していただきたいです。	C	附属機関「市民参加推進フォーラム」では、市政運営上の市民参加の推進について総合的に議論がなされています。パブリック・コメントも含め、適切な市民参加制度の運営について、引き続き、審議をいただいております。
297	パブリック・コメントの制度が意見の言いつばなしにならないような工夫がある。きっちりと政策に反映されるなど、行政の反応が分からないと意見を言う気にならないと思う。成果が見える形にしてみたい。	C	パブリック・コメントの意見に対しては本市の考え方をお示し、結果をホームページにて公表しています。頂いた意見を丁寧に政策に反映していけるよう、引き続き取り組んでまいります。
298	意見を言う制度については、記名式のものも取り入れてよいのではと思う。その方が言った意見について市民も責任を持ち、行政も責任をもって対応し、対話するきっかけともなるのではないかと。	C	お名前を明らかにして参加するワークショップや審議会、無記名のパブリック・コメントやアンケート等、様々な市民参加制度を用意しています。その時々で必要かつ効果的な手法を取り入れながら意見をお聴きする場や対話の場の推進に取り組んでまいります。
299	パブコメを2～3月にやるだけで市民の意見を聴いたということにするのはどうかと思う。	C	市民の意見の反映やその成果を発信するとともに、政策形成のどの段階でどのような参加手法があり、どのように政策に反映されるかを分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。
300	行政が意見を聞かせてもらう広聴と市民が自ら発信できるパブコメは異なっていて、パブコメは市民の力がついて発言することだと思っている。パブコメの制度をしっかりと整えてほしい。	C	興味を持っていただいたり、学びにつながるような対話の場を増やし、積極的にパブリック・コメントを書き添えていただける方が増えるように制度を運営してまいります。
301	色々な意見を話せる場でおしゃべりしたいという人は多いが、WEBからパブコメに書こうとする人は少ないと思う。話をできる場を用意することが重要。	C	市民参加の各種制度の運営の中で、多様な機会を設け、対象者に合わせた柔軟な手法や工夫を推進してまいります。
302	行政計画への市民等の意見の反映について、いわゆる「パブリックコメント」による文書での提出が主流となっているように思える。又、他の方法として「公聴会」等もある。どうも市民等の中には、「意見を口頭で述べる」ことはしたいが、「文書による提出」は、いわゆる苦手という方や、色々な事情で難しい方もおられると考える。これらの事例への対処についてどうするかを検討し、「ルール」として明確化した方がよいと思う。	C	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
303	市民参加推進計画の新たな視点として、外国籍市民に焦点を当てた市民参加の仕組みを構築するべきです。納税の義務を負うものの参政権が認められていない中で、「世界文化自由都市」を掲げる京都市の市民参加の方向性としては、外国籍市民の地方参政権獲得に向けた要望活動を実施するとともに、それが実現するまでの間の京都市独自施策が必要と思われます。	C	市民参加の各種制度は、本市で学ぶ、働く、訪れる、関心を持って関わろうとする人々が参加できるものであり、幅広い市民参加の裾野を広げ、参加と協働のまちづくりを進めてまいります。
304	多くの市民が政治や、行政、市政に興味がないのは事実ですが、何で市民は政治にこれほどまで興味がないんだと思いますか。	C	身近な地域課題への気づきなどから、市政やまちづくりへの関心や、参加につながるよう、市民との情報共有や市政参加の入り口の見える化などに取り組んでまいります。
305	(参加する側も)政治のことなど事前に学んでおく	C	市政参加やまちづくりへの参加は、何が課題になっていてどのようなことが行われているかを知ることから始まります。「京都市情報館」や市民参加のポータルサイト「みんなで作る京都」等を御覧いただき興味を持って分野から参加いただける取組を進めます。
306	若者の市民参加や市政への意識を変えるために今最も変えるべき仕組みはなんだと思いますか？	C	市民参加の裾野の拡大として、あまり興味がなかったり、忙しい方でも参加しやすいデザインの工夫や、子供の頃から社会に興味を持つような意識の醸成が重要です。若者が市政とのつながりを身近に感じていただけるよう、施策7「次世代につながる市政参加」を掲げており、社会課題や地域課題への関心を高める学びの場づくりなどに取り組んでまいります。
307	コロナ化の世界情勢を見ても、日本だけ国民の政治運動がありません。政治に無関心で行動しない民だらけの地域や国が栄えることはありません。でも日本には気軽に政治参加できる環境が見当たらないのも事実です。政治の情報発信力の強化、府民の考える力の強化と参加しやすい環境を作る必要があると思います。	C	身近な地域課題への気づきなどから、市政やまちづくりへの関心や、参加につながるよう、市民との情報共有や市政参加の入り口の見える化などに取り組んでまいります。また、若い頃から社会課題、地域課題への関心を高める学びの場づくりなど、学校や若者の活動を支援する団体等と連携し、取り組みます。
308	中学生や高校生の若い声を聞く機会をより多くつくる 公演やイベントを開く	C	計画には、重視する視点に「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」を、基本方針2に施策5「誰もが参加しやすいデザイン」や、施策7「次世代につながる市政参加」を掲げ、参加のハードルを下げ、楽しみや気軽さが生まれたり、自然と参加が促されるような取組や、子供の頃から関心を持てるよう、学びの場の提供などに取り組んでまいります。頂いた意見を参考に、今後の市民参加の各種施策の推進を図ってまいります。
309	SDGSについて学生が話し合えて、意見を出し合えるイベントとどのような取り組みが必要なのかを何かの音楽フェスなどと協力して盛り上がるイベントとコラボして開催すると大学生も興味もつと思う	C	
310	学校や駅などに目安箱のようなものを設置して欲しい。	C	
311	目に届くような場所にパンフレットやポスターを貼ったりプレゼンなどをして市民参加に興味を持ってもらう。	C	
312	学生がもっと参加できる様にネットで伝える事が大事だと思う	C	
313	何かキャラクターをつくる。参加すると割引クーポンがもらえるなど	C	
314	市民参加をすれば特徴がもらえたり、政策に関心を持ってもらえるようにする	C	
315	京都市民と交流できるリアルなイベントを作ってそこで意見交流をしてみたり、YouTubeもクオリティーをあげ、質問や提案をしやすくしないと無理だと思う。	C	
316	料理教室など人が集まりやすいところで、呼びかける。	C	
317	若者に人気の漫画やアニメなどとコラボしたらいいと思います	C	
318	京ばぶの動画を京都市公式か京都府公式のチャンネルでアップしたらいいと思う。	C	
319	YouTubeでもらった意見をラジオみたいに戻信するコーナーがあれば、意見を送ってみたいかなかも。	C	
320	中学生でアナログで意見を送ったりする事はしないとと思うので、デジタルに力を入れたらいいと思う。	C	
321	もっと日頃から通るところにパンフレットやポスターを置いておくと目に入るから参加しようと思う人がいると思う。	C	
322	パンフレットだけでなく、もっと認知度を上げ誰でも参加しやすくなるように京都市のアプリを作ったり、TwitterやInstagramを活用したりして、京都の情報をあげたり意見を集めたりすればいいと思う。	C	
323	YouTubeだけでなく、他の方法を使って市民にもっと広まったほうがいいと思いました。	C	
324	説明が難しかったので、中学生にも取り組みやすいようにTwitterなどのSNSを活用したらいいと思いました。	C	
325	自分たちの得意なことだけを書いてもらう。気になったものがあればよんで参加してもらう。	C	
326	SNSなどで意見を募集する	C	
327	市政参加、というから難しいようなイメージをもつと思うし、参加したい人は必ず居ると思うのでネーミングを馴染みやすいものにすればいいと思う。	C	
328	発信力が大事だと思います。ただ発信するのではなく中学生が興味を持つような。簡単に簡潔にして入りやすくしたり少し遊びを用いたり。	C	
329	こういう機会を増やしていき、行政ではあまり考えられないような意見をどんどん取り入れていき、自分が考えた案がちゃんと取り入れられたんだとわかるようなことをすれば良いと思った。	C	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
330	SDGsバッチをコンビニと協力して発売したというのを聞いて、仕かけ学の一環としてパンの袋にバッチの内容を印刷したりしたらバッチを買う人だけでなくパンを買う人も読むことになり、知ってもらえる機会が増えるのではないかと思います。	C	
331	京都の老舗などとコラボしても面白いかもしれない	C	
332	もう少し知名度を上げ、貴重な土日の1日を潰してもいいぐらいの大きな楽しいイベントをし堅苦しいイメージを緩和する	C	
333	学生が行きやすい場所でまちづくりに関するイベントや説明会などをすればいいかもしれない。	C	
334	無理に市政参加を促しても良いアイデアは思い浮かばない気がする中で中高生が遊びに行ったりする場所に市政参加に関するなにかを置くといい気がします。そうすれば友達と話し合うこともできます	C	
335	オリジナルのYouTubeチャンネルを作って市民のみんなが見たいと思う動画を作る。まゆまるを登場させて、全国に京都のまちづくりについて発信していくのいいと思う。	C	
336	色々な人が意見を吐けるようなサイトを作って、みんなの意見を元にまちづくりをすればいいと思う。	C	
337	アンケートを日常に組み込むことが認識を広める近道だと思うので切符を買うところや、自販機などでアンケートがあればいいと思う。	C	
338	実際に中学生が市政参加して、何かを変えた例をメディアなどでたくさん出す。	C	
339	「意見ください」だけでは集まらないのが若い世代の特徴だと思うので、やっぱり参加することのメリットをわかりやすく伝えることが大事なのではないかと思った。参加することによる報酬をつける等	C	
340	中学生が作った作品をふるさと納税のような制度で売る	C	
341	誰もが参加しやすいデザインということで、アニメのキャラクターをデザインの中に組み込むのはどうでしょうか。去年、稀にみる大ヒットをしたアニメの鬼滅の刃のキャラクターをデザインにいれると多くの人から好印象を得れると思います。このアニメは大人からも人気ですし、何より若い世代からの支持がすごいので、若者の参加促進につながると思います。	C	
342	どのように私たちの案は明確になっていきますか？どこまで大人たちの空間に入ることができるでしょうか。	C	
343	もし市民が全く参加しなければどうしますか？	C	
344	まちづくりに取り組むメリットが見えてこない。「SDGs達成」「良好な地域コミュニティの維持・形成」では無関心層に届かない。メリットを持たせるか、「無関心層は京都市に住むな」のどちらかでは。	C	短期的なメリット(仕事や学校で聞かれる、求めている情報が得られる、楽しさを感じる)と長期的なメリット(自分たちが暮らすまちが良くなる、市民としての生き方を学べる)両面から参加の裾野拡大を推進してまいります。
345	させられる参加は反感しかない。興味も湧かない。利益にコミットすることが必要だと思う。	C	現時点あまり興味がない方や、興味があっても忙しくて参加できない方が参加しやすい、誰もが参加しやすいデザインを工夫してまいります。
346	どのように実感させるのか、実際に市民が政策に加わるのか、集会などを行い説明するのか。どのやうな方法で手応えを感じるようにするかを教えてください。	C	市政参加の目的や成果は対象者によって変わる部分もありますが、まずは、参加したことで変わったことをしっかり発信することが重要だと考えています。次につながる、人から人へつながる手ごたえを感じていただけるような取組を進めてまいります。
347	政策の中でどの点が市民提案によるものなのかわからない。広報や新聞掲載の際に、市民提案されたものの強調や、提案した個人を取り上げると実感が湧くのでは。	C	対話や協働の実践の中で、共に学びや信頼を構築し、手応えを共有するとともに、協働の成果については、見える形で発信してまいります。
348	行政に意見を言っても何も変わらない＝パブコメも制度だからやっているだけというイメージが払拭できない。	C	市民の意見の反映やその成果を発信するとともに、政策形成のどの段階でどのような参加手法があり、どのように政策に反映されるかを分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。施策6「協働の成果の手ごたえ」で、次につながる、人から人へのつながり市政参加のために、御意見や御提案の手ごたえを感じていただけるよう取組を進めてまいります。
349	京都市は若者の参画を施策として挙げているが、中高生にとって市政参画は自分たちの現状とはかけ離れている。したがって市政、街づくりのイメージ、そして興味あるいは何らかの形で中高生がそれらにかかわれる機会を設けることが必要不可欠だと考える。また中高生の大半は学校と家の往復により一日が終わる。中高生は市政やほかのものに向ける時間の確保が難しい。したがって学校の授業の一環としてあるいは課外活動として取り入れていくことはいいのではないかと。より具体的に言うと、例えば各学校の生徒会役員とのタイアップ、学校現場の実情のヒアリング、また授業等でい役所役員たちの自分たちの職業紹介を試みるのか、プレで市役所役員のお仕事体験とか、もっと言うならば例えば亀岡や桂川周辺地域が急速に発展してきているという事実を含めどんな施設、場所、雰囲気になればいいかなどをワークショップとして中高生を対象に開催してみても、それを実際の町づくり案として市が実現していくとか、自分たちにとって身近な地域の変化が可視化していけるようなことをやってみたりなど行政が身近な存在として歩みよっていくことが必要なのではないかと思った。また学校にとらわれず、中高生の利用率が高い図書館、ユースセンターまた大型ショッピングモール、またマクドナルドなどの飲食店などでのポスター、イベントの宣伝あるいはイベントの開催、アンケート調査などを行うことで若い世代の参画を図っていくことがとくさくさなのではないかと思う。	C	施策7次世代につながる市政参加において、シチズンシップ教育や大学・学校等と連携した学びの場の提供など掲載し、取組を進めます。頂いた意見を参考に、今後の市民参加の各種施策の推進を図ってまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
350	基本方針1で挙げられていた「誰もが参加しやすいデザイン」は市政参加においてとても重要な政策だと思う。市民の視点に立って、あらゆる年齢層の方が参加しやすいように場や手法を工夫する必要がある。参加にハードルを感じる市民の例として、家庭事情、仕事関係、文化の違いなどが挙げられる。これらのすべての方が参加しやすいようなユニバーサルデザインが必要になってくる。子どもが参加しやすいように、授業や講義に市政参加の要素を組み込んでいけば良いと私は考える。2ヶ月に1回程度、市政参加にまつわるアンケートを実施したり、実際に市議会議員を招いて、市の状況について少しでも興味を持ってもらうことによって、若者の市政に対する興味が向上するのでは無いだろうか。	C	
351	第3期京都市市民参加推進計画 骨子案に関してウィズコロナへの対応について自分なりに考えて見ました。コロナ禍ということもあり、より市民の声を聞く機会というの難しくなっているのかなと思います。そこで考えたのがリモートによる市政参加です。この案の主な対象者は学生です。今、コロナ禍ということもあり、社会科見学という機会もほとんどなくなってしまったのではないかと思います。そこで、学校の授業時間を使って、京都市の職員の方と話す機会をリモートで設けることで若い世代の意見を多く取り入れるのではないかと思います。	C	
352	政治に関心がない人にガイダンスのようなものをしてほしいと思う。	C	
353	教員と市民はどこで集まり、定期的に会うのか？どうやって呼び込むのか？何歳からの人から参加できるのですか？	C	市政参加について、年齢制限を設けているものではなく、子供の頃から、大人との関わりや学校との連携などを通じ、自然と参加ができ、次世代へつなげる裾野の拡大を図ることができるよう、取り組んでまいります。
354	地域の企業は、地域の子どもたちへのアントレプレナーシップ教育等を通じて貢献できる。	C	市民と市民の学びあいの対話の機会は、市民の力により、京都市をより良くする取組となります。こういった市民が市民に価値を提供する機会を京都市としても支援できるよう進めてまいります。施策7次世代につながる市政参加において、シチズンシップ教育や大学・学校等と連携した学びの場の提供など掲載し、取組を進めます。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
市民のまちづくり活動の活性化(基本方針3)			
355	関心を持たない者に問いかけてもなかなか参加につながらない。そういう意味では、もともと関心を持っている方へのアプローチが重要である。まちづくりや市政、社会に興味を持つ若者がいれば、しっかりとそれを捉えて、大人との関わりを持たせることや、興味を持つ者同士が集まれる場づくりもいるのではないかと。	A	より多くの方に市民参加していただくため、現時点あまり興味がない方や、興味があっても忙しくて参加できない方に働きかけていくとともに、既に参加されている方から、新たな参加者を呼び込んでいただけるような、人づてによる情報の伝播や、顔の見える関係づくりなどで、市民参加の輪を広げる取組を推進してまいります。
356	「第3期京都市市民参加推進計画(骨子案)」の動画と資料を見て、私が3つの基本方針の目的達成のために、最も効果のあると考える施策は、施策9の「まちづくりに取り組むきっかけづくり」である。特に、サービスを受けた経験から提供者になる工夫をするという部分がとても効果的だと思った。自分なら、興味があってもどのように参加すればいいかわからないというとき、仲間がいると心強く、参加しやすくなるし、参加しやすい環境があるとやってみようという気になる。経験者がそのような人を呼び込むことで参加者の輪が広がり、まさに参加の好循環が生まれると考えられる。そのために、もともと参加していた人が周りの人を巻き込みたいと思えるようにする必要があり、参加することでの楽しさや意義を見いだせる工夫をすることもとても大切だと思う。興味があり参加してみたいと思う人は窓口に行ったり、ポータルサイトも見たりすると思うので、情報発信することも意味があると思う。さらに、参加している市民が情報発信者になることでリアルな声が分かり、楽しさが分かり、参加のハードルを低くすることもできると思う。市民が市民を呼び込み参加の輪が広がることは、市民のまちづくりの活性化に最も効果があると考えられる。	A	
357	協働による課題解決は、重要だと思います。そのためには、多様な市民や事業者が自分ごとと考えられるような、課題設定や問いかけのデザインが重要となると思います。それが行政の各部署の連携・協働にもつながるものとなると思います。	A	行政課題や社会課題を見える形に設定し、多様な市民や事業者とともに、協働で課題解決を目指す、新しい協働の取組を進めてまいります。
358	施策13 多様な主体の協働による社会課題解決への挑戦 京都市内は広く、地域ごとの課題がさまざまであるので、住む人、通う人、子どもからお年寄りまで、さまざまな世代によって、地域の課題を解決できる取り組みを進めていきたい。行政がやってくれるのを待っている時代は終わったと思う。みんなで見えを出し合い対話して、地域を支えていく取り組みを進めていきたい。	A	SDGsを背景に、社会課題に関心を寄せる企業や学生も増えています。行政が社会課題をとらえて、企業等の強みとも結びつけられるような新しい市民参加、公民連携につながる取組を掲げ、進めてまいります。
359	企業などの事業者をはじめとした、多様な主体と協働するというのは、昨今の複雑な社会情勢の中では重要な役割を帯びてくると考えるので、行政として適切な補助や協働が為されるように方針に盛り込まれていて良かったと思う。	A	
360	パートナーシップや協働の重要性が訴えられている中でSDGsを背景とした多様な主体の参画促進を行うことは地域だけでなく社会の課題への活動意欲を高めるもので素晴らしいと思いました。	A	
361	ファシリテーターの育成をすることは大切だと思う。ファシリテーターが増えることで、対話しやすい場づくりができる。対話をしていると、話の目的を忘れてしまう時がある。その目的を忘れずに、対話を円滑に進めてくれるファシリテーターがいると時間の短縮にもなり、話が進みやすい。私もファシリテーターの役割を理解して、実際に対話してみたいと思う。より多くの意見やアイデアを得るためには、ファシリテーターは欠かせない役割だ。職員の方が大学への出張だけでなく、中学校の授業でファシリテーターの役割を教えたりするなど、若いうちから市政参加に興味を持ってもらうためにも必要だと思う。今後市民の皆さんが年齢関係や立場など関係なく、ファシリテーターの役割を担えるようになればいいなと思う。	A	平成29年度から、職員の市民協働ファシリテーターの育成・任命制度を運用し、市民との未来志向の対話の場づくりなどに取り組んできました。今後とも、より実践的に市民参加、協働のまちづくりを実現できる職員の育成を進めます。また、未来志向の対話の機会を増やすために、職員のファシリテーション能力の向上はもちろん、市民の方にもその役割を学んでいただくなど、市民同士をつなぐ役割を発揮いただけるような取組も進めてまいります。
362	市民参加を推進するためのコーディネーターや活動をサポートする事務ができる人など、まちづくりアドバイザーの市民版的な「つなぎ役」を育てる必要があると思います。	A	
363	施策7について まちカフェ事業や祇園祭ごみゼロ大作戦などでもリーダーを育成することもしてきたので、それをもっと京都市の役割として、位置付けることが必要だと思います。	A	
364	自治会や町内会と若者が交流し、地域住民の自主的かつ活発な地域活動を協働で行うにあたって、若者の新しい考え方や価値観を受け入れられるような地域コミュニティを作る必要があると思う。若者が年齢の離れた大人に対して自分の意見を言いにくい環境は必ず生まれるものであるだろうし、それによって年長者の意見だけが採用されていく状況になってはならないと考える。	A	市政やまちづくりへの参加の裾野の拡大のために、誰もが参加しやすいデザインとして、性別や年齢、属性で求められる役割や意見が固定化されない組織運営や場づくりなど、心理的負担を減らす参加のデザインについて、計画に掲載いたします。
365	1番驚いたのが市民参加についてです。今までは市政参加が自分の中でイメージが強く、私たちのような学生、子供には関係ないと思っていました。ですが、まちづくり活動だと私達のような学生でもやりやすいと思います。私のような学生が積極的に市民参加するにはどのような解決策を考えていますか。	B	まちづくりに取り組むきっかけづくりのため、対話や学び合いの機会をつくるとともに、到達を重視する情報発信を行い、広く市民の方に参加いただけるよう取り組みます。また、参加のハードルを低くする、楽しさや意義を感じていただけるような工夫も進めてまいります。様々なまちづくりの活動を見える化するとともに、まちづくりに役立つ情報をポータルサイト「みんなで作る京都」などにより発信してまいります。
366	基本方針3であるが、活動をまず「はじめる」ことが何よりも大切なので活動を知らない人にもきっかけを与える必要がある。そのはじめる工夫としてYouTubeやSNSのような誰でも簡単に参加できることから始めていくのが良いと思う。	B	
367	市民がまちづくりに参加するのはとても大切な事だと思います。でも、この取り組みについて知ってもらうきっかけが必要だと思います。どのような方法で知ってもらおうと考えているのですか。	B	
368	まちづくりに取り組むきっかけをどうやって作るのか。	B	
369	「まちづくりに取り組むきっかけづくり」 まちづくりには若者の意見を探り入れるべき。学生や若手が参加しやすいよう、スマホやオンラインを駆使したやり方が必要だと思う。	B	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
370	まちづくりに関心があるのですが、どうもハードルがあります。本気度が高くない人でも入りやすい入口がほしいです。	B	
371	3話で出てきた市民のまちづくり活動に支援をするということに関心を持ちました。市民が京都を自らの手で作っていくという姿勢の後押しになっていいなと思いました。どんな市民のまちづくり活動があるのか、そして私のような子供でも参加できるのかが気になりました。	B	
372	なんかまちづくりって難しそうだけど、玄関周りを掃除するだけでもまちづくりというのに興味を持ちました。他に、小中学生でも出来るようなことってどんなのがあるんですか？	B	
373	どんな地域の問題をどのパートナーと今進めているのか知りたい。実際に進めている活動はあるのか。	B	
374	実際に参加している学校はどんなのがありますか？このような取り組みはどの地域で行われていますか？	B	
375	まちづくりをされている団体は沢山あるが、世代に偏りがある。ただ、世代代わりは簡単ではなく無理にできるものでもない。新しい入口が沢山あることが裾野の拡大につながるのだと思う。	B	それぞれの地域や組織、団体の方により事情は異なりますが、次世代への参加の裾野が広がるよう、多様な主体の対話の場づくりなどに取り組んでまいります。
376	まちづくりにもっと参加したいが、町内会以外の活動をしたい。もう少し幅広い参加のきっかけがあるとと思う。	B	多様なまちづくりの活動について、見える化するとともに、まちづくりに役立つ新鮮な情報を発信してまいります。
377	古くから住む市民だけでなく、新規で移り住んだ市民にも参加しやすいまちづくりの在り方を模索してほしい。また、より気軽に「できるところから」参加できるようにまちづくりの形はどういったものかを検討してほしい。	B	地域の多様な主体の未来志向の対話の場を増やす取組を進めるとともに、事情に応じて、短時間や、可能な部分だけ参加するような、参加のハードルを下げる取組を推進してまいります。
378	少子高齢化の進行や地球温暖化、自然災害の発生など社会や環境が変化していき、社会課題は複雑化・多様化している。新型コロナウイルスは、社会経済活動に大きな影響を及ぼし、ウィズコロナ社会、ポストコロナ社会における新しい生活スタイルや働き方の変化など、変革への新たな動きが生まれはじめ、これからさらに必要になってくるため社会情勢の変化への取組を地域コミュニティでも始めていく必要があると思った。	B	地域コミュニティを取り巻く社会情勢の変化等を踏まえ、感染予防策や新たな方法、工夫した活動など、「新しい地域活動スタイル」の普及・啓発に取り組んでまいります。
379	地域の繋がりを強化するとおっしゃっていますが具体的にどのような方法がありますか？お聞かせください。	B	自治会・町内会など地域住民組織をはじめ、地域の市民活動団体や事業者、学校、大学等の各主体の交流と協働を促進してまいります。
380	施策11で、地域住民組織と活動団体等の交流と協働を促進することが、今後の地域づくりの一番重要なことですので、これまで以上に市が両者をマッチングする機会の提供をお願いします。	B	様々な主体間のコーディネート等の役割を果たし、より多くの主体のまちづくり活動への参加を推進してまいります。
381	施策11 地域コミュニティ活性化への支援について 新型コロナの影響で、学区の活動がほとんどできていないように見受けられる。高齢者が主体の自治連ではオンラインへの対応など難しいのではないかな。もっと幅広い世代が参加する地域コミュニティになるように、区役所を中心に支援、協働できるような仕組みづくりをしていただきたい。	B	地域コミュニティを取り巻く社会情勢の変化等を踏まえ、感染予防策や新たな方法、工夫した活動など、「新しい地域活動スタイル」の普及・啓発に取り組んでまいります。
382	現役だと地域活動にも限界があります。仕事の一貫として関わる機会があると市政やまちづくりに課かかわるキッカケになって良いと思います。	B	企業や事業者が本業の中で市政やまちづくりに関わっていただけるような仕組みや、環境づくりに取り組みます。
383	仕事の中でもまちづくりや市政に参加できるのかもしれないと思いました。	B	また、誰もが参加しやすいデザインの中で、必要に応じて短時間や少しだけの参加ができるような、幅のある参加形態の工夫等を進めてまいります。
384	サラリーマン化して職住接近でなくなった時代に、企業や経済団体等の中で、社員が地域に意識を持つような場や機会を提供する、地域とのつながりづくりすることが重要。	B	
385	最近、会社から社会活動を勧められています。町内会以外に参加出来る機会があると助かります。	B	まちづくり活動は、まちをよくするためのあらゆる活動であり、活動が広がることが京都のまちがよりよくなることにつながります。ボランティア活動や社会的活動への支援への参加など、様々な情報はポータルサイト「みんなでつくる京都」などで、情報発信してまいります。
386	まちづくり活動を継続するための支援というのは、具体的にどのように支援するのか知りたいです。	B	持続可能なまちづくりのために、協力者や情報、資金など、活動に必要な資源を適切にコーディネートしてまいります。
387	内容が難しかったです。具体的な支援の方法を教えてください。	B	
388	市民が市民参加やまちづくりに参加することは条例で決められているが、条例で決められているからやるのが前提ですという説明では、しんどい家庭や忙しい人はなかなか参加しにくいし、条例なのと言われることは1番行政っぽくて市民が嫌うことだと思う。	C	参加の意思があっても、様々な事情で参加しにくい方や、現在興味がない方にも興味を持っていただき、自分ごととして参加いただけるよう工夫してまいります。
389	ボランティアや町探検など町を知りながらいろんな世代同士の交流ができるプログラムを色々やる。するといろんな世代の意見をさらに取り入れることができる	C	楽しさややりがいにつながる、多世代で交流できる取組も推進してまいります。
390	施策9について 市民のまちづくり活動に参加することでポイントもらえるような仕組みを作れば、参加のハードルも下がり、楽しみながら参加しやすくなると思う。それが、学生にとっては、成績に加算されるとか、飲食店でのサービスになるとか、電車の運賃の割引や、駐輪場の料金免除に使えるといいのでは。ポイントをためると同時に、市民活動のアイデアだったり、要望もアプリを通じて共有できたり、交流できるものになれば、若手の市民参加が増えるのではないかな？	C	まちづくり活動に参加しやすくするために、参加のハードルを低くする、楽しさや意義を感じていただくなどのきっかけづくりを進めてまいります。頂いたご意見は、参加の裾野の拡大や持続可能な仕組みづくりのために参考にさせていただきます。
391	施策9について ハードルを低くする、楽しさや意義を感じてもらう意味では、子どもでも理解できる言葉を使った情報提供が必要だと思います。そうすることで、子どもはもとより、海外からの移住者にも、やさしい日本語で理解してもらえ、みんなが理解することで、対話も生まれると思います。現在は、コロナ禍のため難しいかもしれませんが、成人式のように、半年に一度、新入居者を歓迎する。隣人祭りを開催する方が、学区の防災訓練よりも効果があると思います。	C	

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
392	まちづくりカフェについては、「カフェ」よりも「バー」など一対一になるようにして話しやすい空間を作った方が良いのではないかと。他の具体的な案はどんなものがあるのか。	C	多様な主体が一堂に会して対話することで生まれること、個別の対話でないと話せないことの両面について、それぞれの良さを生かした市民参加の制度運営を心掛けてまいります。
393	外国人の方とも協働してみたい。	C	市民参加の各種制度は、本市で学ぶ、働く、訪れる、関心を持って関わろうとする人々が参加できるものであり、幅広い市民参加の裾野を広げ、参加と協働のまちづくりを進めてまいります。
394	地域コミュニティ活性化への支援について、学区単位で活動している各種団体も役員が高齢化しており、活動の限界を感じる。核になる若手世代に運営をまかせて、地域ごとの課題を担い、解決していけるような取り組みを支援していただきたい。具体的には、地域の人材が担えるさまざまなソーシャルセクターで、子育て支援や高齢者の支援を行えるよう働きたい人が有償ボランティアを行ったり、歩いていける範囲のまちの課題を小中高生に考えてもらい、授業や土曜日などに一緒に活動できれば、若手の担い手を育てていくこともできるのではないかと。	C	地域の自主的かつ活発な活動が行われるよう、頂いた御意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
395	地域コミュニティ活性化のために、地域で毎月行事(七夕に竹を切ったり、お正月にしま縄を作る)を開催したら、コミュニティが深まると思う。	C	
396	既存の地域コミュニティである自治会、PTA、体振といったものが既に制度疲労を起こしていると思われる中で、京都市がそれらの仕組みを前提とした仕事を変わずに行っていることの課題意識が見えないこと、市民参加の一つである議会との関係について何一つ触れられていないことについては疑問を感じます。市民参加、地域コミュニティの活性化を推進するに当たり、これらは大きな課題だと考えますので、京都市としてどう考え、取り組むのか、計画に明記することを希望します。	C	市民参加の推進においては、代表民主制を基本とする地方自治制度のもと、市会との連携を十分に図ることを計画に記載しております。地域の自主的かつ活発な活動が行われるよう、頂いた御意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
397	子どもは支援される側になりがちだが、コロナもあるため、例えば高齢者にインターネット講座を小中学生が先生になるなど次世代のボランティアの育成を進めていけそう。	C	子供の頃からまちづくりに関わることが次世代につながる市民参加の裾野の拡大のためにも大切です。御意見について、持続可能なまちづくりを支援する仕組みのための参考とさせていただきます。
398	このコロナの非常に大変な時期ではありますが、その中で「財政支援」をどのように取り入れていくか具体的に教えてほしいです。	C	コロナの情勢や厳しい財政状況の中、持続可能なまちづくりのためにも、つながりや協働が大事であり、市民参加の各種制度の運用について、適切かつ効率的・効果的に実施してまいります。まちづくり活動の協力者、情報、資金などの必要な資源を適切にコーディネートするとともに、社会全体で活動を支える機運の醸成などにも取り組んでまいります。
399	施策12にある「持続可能なまちづくりを支援する仕組み」とありますが地域で行われているボランティア活動などで、参加年齢層の高齢化などで今後の活動が困難な箇所もあるのが現状だと思います。そうなる原因として私が考えているのは、資金援助が不足していることと、地域の活動を知る機会がないことだと考えています。謝礼とまでは言わないまでも活動に参加しに行くまでの交通費が十分賄える程度の資金援助と、活動にマッチングできる機会や場所を増やすための政策を進めることは可能でしょうか。	C	
400	京都市と住民が協働した「防災まちづくり」など、行政はいつまで支援をするかが気になる。京都市の防災まちづくりは3年で計画を策定するパターンが多い。行政が離れた後は地域の人達だけで自走できるようになってほしいが、地域の担い手不足・高齢化が進み、まちづくりのモチベーションを保つのは簡単ではない。計画書を作った後も、地域が本当の意味で自走できるよう、さらにきめ細やかな対応が必要だと思う。	C	



番号	意見要旨	種別	本市の考え方
計画を着実に進めるための推進体制			
401	職員は庁内に閉じこもっていないか。市職員が市内のリアルな現場に頻繁に顔を出し、様々な人と出会い、市民とともに汗を流すというのが「協働」ではないのか。市民に協力を呼び掛けるのもいいが、市職員ひとりひとりが地域へ深く関わる機会をつくることも大切。	A	施策2「信頼や学びにつながる「市民と職員の対話」の推進」で掲げた、市職員の活動の場への外向く取組や、未来志向で対話する取組など実践する中で、協働を担う職員の育成も図ってまいります。
402	役所の人と話をしたことが新鮮だった。仕事の立場を外して社会のことを話せる場があれば、私たちの意識も変わると思った。そうした取組をもっと進めてほしい。	A	職員と市民が時に肩書を外し、自由に対話ができるような場づくりも検討してまいります。
403	市役所の人には立場があって自由に活動や話が出来にくそうな印象があります。組織風土を変えないといけないのではないのでしょうか	A	職員が仕事の中で、協働を実践することはもとより、社会的活動にも取り組むことも促進してまいります。時には、職員と市民が時に肩書を外し、自由に対話ができるような場づくりも行い、意識改革を進めてまいります。
404	行政の人と話をしたが新鮮だった。立場を外して社会のことを話してもらえると刺激を受け、こちらの意識も変わる。そうした機会があると良い。	A	
405	市役所の人に知り合いはいますが、市政について話すことはあまりありません。そういう機会があると市政が身近に感じられます。	A	
406	「計画を着実に進めるための推進体制」の項目のみ他の項目と比べ概念的で具体性・現実性に欠ける記述が多いように感じます。例えば、取組1における「変革に挑戦する組織づくり」というのは、述べるのは簡単ですが、これまで培ってきた組織体制を変革するという部分において非常に難しい課題です。「成果の見えにくいことへの挑戦」というのも素晴らしい取り組みだと思いますが、具体的にどのような取り組みのことを指すのか、また後にどのような方式で評価するのか、その部分が曖昧である印象を持ちます。全体的に明確で具体性のある素晴らしい骨子案であるからこそ、その実行力となる「推進体制」の記述を明確にし、具体的な取り組みを挙げる必要があると考えます。	A	行政が抱える課題について、事業化する前の実証段階から企業等と協働する仕組みを通じ、協働による変革に挑戦できる組織づくりや職場風土を醸成します。また、このような取組を職員が実践することで、協働を担う人材育成の育成を図ります。
407	役所の中のことはもっと具体的に何をするのかを示してほしい。	A	
408	公務員が挑戦的な活動をできるようにするのでしょうか？そのような文化のない組織が、理念だけを掲げても実体を伴わない内容になると思います。	A	
409	例えば「コロナ禍」といった「新しい行動スタイル」への変化が必要となった場合においても「市民参加推進条例」に定められている条項が遵守できる体制を「全庁共汗」で立ち上げ。時々の課題に対処できる仕組みを「骨子」の柱として組み込んで頂きたいと考えます。	B	「重視する視点」として「協働による課題解決への挑戦」を掲げております。新たな課題、新たな行動スタイルへの変化に対応するためにも、変革に挑戦する組織づくりを進めてまいります。
410	計画を着実に進めるための市役所の体制についてだが、1年ごとに、計画がどれほど達成できたか実感できるかについて市民にアンケートをとるなどといった、市民へ対して達成状況への考えの調査を行う体制を作ればより良いと思います。	B	市民参加推進フォーラムによる進捗管理をはじめ、市政総合アンケートや生活実感調査、個別ヒアリングやワークショップ、パブリック・コメント等、様々な制度や手法を通じて、実施状況を確認いたします。
411	具体的にこの課題とか、この制度と決まっていなくてモヤモヤについてや、はっきり決まっていなくて地域でやってみようこと等を相談したい。そういう話を聞いてもらえる市役所、区役所であってほしい。	B	区役所・支所は最も身近な行政機関であり、今後とも、相談や提案、支援などの窓口としての機能を発揮します。
412	取組2にある、区役所の機能強化をもっと進めてほしい。しみせんやいせけんなど遠いところにある人が区役所なら行きやすい。各区ごとの課題や特性も違う。いつでもだれが来ても大丈夫なサロンのような場所、子育てや介護のことを気軽に相談できる場所、みんなが持っている力をシェアしあえるネットワークづくりを区役所を中心に構築して、市民の有用感を高め、子どもからお年寄りまでみんなが力を発揮できるまちづくり、市民参加をすすめる取り組みを行ってほしい。	B	
413	内容はとても素晴らしいものですが、実際に事業を行う部署(局)が市民参加の意識をもって事業を行う保証がありません。特に、市民に最も身近な区役所・支所での実施が大切だからこそ、推進体制の取組2として強調していると読み取れるのですが、「支援」という記述にとどまっているのが残念なところです。区役所・支所が市民参加を進める主体として動く、というレベルの記述にできるように、市役所と区役所・支所との連携を期待します。	B	区役所・支所では、協働の支援のほか、促進という役割も担っており、取組1「全庁的な連携による協働分野の拡大と挑戦する組織文化の醸成」という記載のとおり、全庁的に連携し、取り組んでいきます。
414	推進体制の点では「最も身近な区役所・支所における協働を支援する役割」や「市民参加を実践する職員の育成」といった区役所やその職員を変える事も大切だけど、例えば市民参加のために区役所に来る人の数を増やすための体制を整える事も大切だと思う。	B	市民参加の目的はそれぞれのテーマや目的とする政策によって部署が分かれますので、どのような部門であっても、職員一人一人が市民参加、市民との協働を進められるよう、組織的に人材育成、制度整備を進めてまいります。
415	取組2に関して:区民にとっては区役所職員の顔は見えるが、市役所の職員の顔こそ見えにくい。区職員の顔を通して、市役所職員の顔も見える(市役所で取り組んでいることが分かる)と、市政に協力しようという気になれるかもしれない。	B	市民参加、市民との協働の成果や、市役所が抱えている課題等をしっかり発信していくことで、協働のパートナーとして市役所を意識していただけるよう努めてまいります。
416	行政や市職員が、まちづくり活動をする者に、しっかりと寄り添う姿勢が大事ではないか。例えば、様々な複雑な支援制度(補助金等)について、市民や地域、活動団体は理解するのは難しい。単なる受付窓口ではなく、支援制度の活用策のアドバイスなど、市民や地域に寄り添ったプラスアルファの部分がほしい。顔の見える関係で、地域やまちが良くなるためのプラスアルファの部分を共に見出すことができれば、市民の信頼も高くなると思う。	B	これまでから、市民ニーズや課題に寄り添う行政運営を心掛けてまいりましたが、より一層未来志向の対話により、課題や未来像を共に見出せる関係性を構築できるよう努めてまいります。
417	行財政が厳しいと聞くと、そういう時に経費の削減や職員の削減も想定されると思う。地域との対話やより沿う支援のところが減らされるのではないかと懸念する。デジタル化などで定型化するのは機械に置き換えることができるかもしれないが、まちづくりのための対話や信頼関係づくりのためには、市職員の関わりやそういう職員の育成が重要である。	B	効率的で効果的な行政運営を前提に、市民協働を実践的に取り組める職員の育成に努めてまいります。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
418	市民が市政参加に主体的に進んで取り組むのが理想だが、職員が地域に出向くことによって、市民も心を開き情報を受け入れやすいと思う。また、職員側からも出向くことによって、多くの市民の方の意見やアイデアを聞くことができるというメリットがある。仕事や育児で忙しい方など、市政参加に興味はあるが、参加するのが難しいという方にも、職員の方から歩み寄ることが大切だと考える。私も実際に大学の授業で京都市職員の方のお話を聞くことで、京都市が取り組んでいる内容に興味が高まった。	B	職員によるアウトリーチ活動(現場に出向き話を聞くこと)や、相手の事情に合わせたオンラインの活用等、状況や必要性に応じた対話の手法を工夫してまいります。
419	職員が地域社会へ出て活躍することも推奨している計画で、望ましいことだと思います。推奨するからには、地域に出た職員を評価する制度もしっかりと構築してもらいたい。	B	職員が仕事の中で、協働を実践することはもとより、社会的活動にも取り組むことも促進し、それらの行動を適切に評価してまいります。
420	信頼を築くには一緒に活動することだと思う。住んでいる場所の町内会に限らず、職員の方にはどんな形であれ、社会活動に参加してほしいと思う。	B	
421	京都市職員自体、もっと地域自治活動に積極的に参加すべきでは？	B	
422	市民参加の仕組みが効率的、効果的に運用される必要があると思います。最近ではオンラインの進歩や働き方改革、ワークライフバランスなど言われていて、市やまちづくりの現場でも積極的に取り入れられるべきだと思います。	B	市民参加の各種制度の運用においては、早い段階から市民意見を取り入れることや、ICTの活用も含め、適切かつ効率的・効果的に実施してまいります。
423	職員の実践的な育成を言うことは、一人一人が街づくりに貢献しようという意識がより深まると思うのでとてもいいと思います。	B	市民協働ファシリテーターが対話の場の企画・運営で活躍しており、今後も実践的に市民参加、協働のまちづくりを実現できる職員の育成を推進してまいります。
424	市民参加を実践する職員の育成を行っており、より市民参加がしやすい環境になっているのではないかと思います。	B	
425	市民と職員が互いに対等の立場ということについて、職員が一方的に行動しても市民はついてくるところか離れていってしまう恐れがあるし、逆に市民の意見が強くなっても非現実的なものであったり逆にネガティブな方向へ向かってしまったりすると思うので、両者が対等であることも非常に重要なのだと感じた。	B	市民も職員も互いに安心して参加できる、未来志向の対話を推進するなど、対等の立場で学びや信頼をつくり、協働を進めてまいります。
426	職員と市民が対等の立場に立ってとあったけれど、具体的にどんな取り組みに対して対等の立場の立っているのかが不思議に思った。	B	
427	本件計画と二元代表制、直接民主主義の連関についてお伺いしたく存じます。	B	市民参加推進計画は、市民参加推進条例に基づき策定するもので、代表民主制を基本とする地方自治制度の下、市会の権限及び役割を尊重し、市会と連携を図りながら、市民参加を推進するものです。
428	例えば、保健福祉局において、「定例開催している協議会の開催について、京都市情報館の『審議会等開催案内』のページに掲載されていなかったため、市民の方から指摘される事案」があった場合、局内だけではなく、全庁で縦割りを排した課題の共有と対処の仕組みが骨子に組み込まれることが必要だと考えます。	C	各政策・施策の推進においては、市民参加制度が適切かつ効率的・効果的に実施されるよう取り組んでまいります。
429	「市民参加推進計画」は、「市民参加推進条例」に定められている条項を、市政運営において実現させるために策定するものであろう。ところが、現状を見ると、例えば「京都市高齢者施策推進協議会」等において、条例に従った附属機関等の運営が行われていない事案が発生している。「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進を通じて、再発防止という課題に挑戦を実践するための制度の創出が必要であると考えます。	C	
430	市民の意見を拾うというのが現在の職員の数で賄えるのか	C	職員と市民の対話を重視しながらも、市民同士の対話をお聞かせいただいたり、ICTを活用するなど、効率的・効果的な市民参加制度の運用を進めてまいります。
431	まちづくりの手法としては、いろいろな手法があるかと思いますが、区役所などが窓口となっているものや、都市計画や景観など都市計画局が窓口となっているものがあると思います。そういった窓口に関しても一元化されることも視野に入れて検討したいです。	C	本計画は、京都市のすべての政策に横断する考え方を示しています。複雑化、多様化する様々なまちの課題に対して、各部署が窓口として責任をもって遂行するとともに、必要に応じ連携を図り、全庁横断的に取り組んでまいります。
432	区役所や行政自体がコーディネート役を果たすのならば、市職員ではないアドバイザーなどはより専門性の高い人材を求められると思う。	C	頂いた御意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
433	まちづくりアドバイザーの役割。区の基本計画づくりの支援員？まちづくりの会議等に時々来て、何のために居るのが分からない。参加する時と参加しない時があったり。	C	
434	職員と市民との距離が近いのは大変良い事と思います。ただ、市民と市職員との間を取り持つ中間組織もたくさんあり、住み分けが出来ていないところもあるように思います。	C	市民参加を実践的に進められる職員の育成に努めるとともに、市民の中で、リーダーシップを取られる方、ファシリテーションをされる方、支援を提供される方と連携できる仕組みづくりを検討してまいります。
435	市民参加を実践する職員の育成について。計画を着実に進めるには、専門性の高い人材が必要だ。まちづくりの現場は常に人手不足だと感じる。市役所の職員の能力を高めるだけではなく、民間の視点を持った働き手、NP Oなど諸団体との連携が必要。その際、ある程度の待遇を保障しなければ、いい人材は集まらない。	C	
436	区役所にいる方が、地域社会に入って実際にまちづくりに関わるのは仕事なのではないか？仕事ではない場合、一社会人として入ることは他の方よりも心理的ハードルが高いように思います。より気軽にまちづくり活動に関わる仕組みが必要だと思います。	C	参加しやすい仕組みなどにおいて、頂いた御意見は今後の参考にさせていただきます。

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
その他 市政に対する御意見等（種別 D）以下の頂いた御意見について、今後の市政運営等において参考にさせていただきます。			
437	街づくりの第一歩は、まちづくりニュースの発行と考えます、地域の問題点の共有からはじめ、発行回数を積み重ねる事が何より大切と考えます。問題解決の輪を大切にすることは合意もありますがより多くの住民の関心を集めるためにニュースの発行は欠かせないと思います。何よりも会の存続には必要な手段と考えます。主なメンバーにとっても発行回数は強い力になるのではないのでしょうか。まちづくりの基礎を築く為には財政的援助は不可欠と考えます、京都市は財政難の折ですが、基礎投資は必要と考えます		
438	施策10の「SDGsを背景とした多様な主体の参加促進」の提案内容を工夫する必要があると考える。なぜなら、地域団体と市民活動の取り組みの連携などの全体の活動だけでなく、例えば、ビニール袋を利用せずにエコバックを利用することや水道を使うときはこまめに止めるなど、市民に日常生活でできるSDGsの取り組みを分かりやすく、身近に推進していくことで、市民のSDGsに対する意識がさらに高まると考えるからだ。		
439	職員の数は何人ですか。		
440	京都市のホームページはとにかく分かりにくいと思います。改善を望みます。		
441	京都市の伝統など他の地域の人も知ってもらおう		
442	施策10(P.7)SDGsについて、国連は発展途上国を目印にしているのに、G7の日本がアピール対象とすることは如何か。明治初期に、森有礼が「日本を英語圏にすること」を主張したというが、京都市内の国際協調において、日本語・日本文化・京都市民の日常生活を大切にしてほしい。		
443	市民のまち作り活動の一環として、交通状況の改善が考えるべきだと思う。私は学生として、京都に下宿しているが京都市内の交通状況は最悪だと思う。この交通状況で学生がこのまま京都市内に根付いたり、車が必要になるファミリー世帯は京都市内に引っ越してくることは難しいと思う。これを改善することが持続可能な町作りにも繋がると思う。まず走行車線に駐停車している車が多すぎると思う。駐車場が少ないことはわかるがメイン道路の走行車線を塞ぐことに対する罪悪感がなき過ぎる。特に配達業者や社用車が目立つので条例などで取り締まるべきだと思う		
444	コロナ禍において持続可能な社会をつくることは今後さらに重要になってくると思います。そして新型コロナウイルスの悪影響は多岐に渡っており、経済活動への大打撃に加え、適切な医療や教育を受けられない人が急増し、高齢者や非正規雇用の人たちなど弱い立場の人により被害が出ることで、格差も拡大している現状があります。こうした中、昨年起きた台風10号では三密の避難所に人が集中し、その避難所にも入れない人が続出するなど災害へのぜい弱さも露呈しています。災害が起きたとき三密を避けた避難を今から考えていくことや、コロナの影響で経済的に学校に通えない学生への支援などを優先的に取り組む必要があると思います。		
445	子どもたちが安全に遊べる場所、特にボール遊びができる場所が市内では限られているように感じるため、もう少し子どもたちがのびのび遊べる場所が増えたらいいなと思います。		
446	市バスのキャリアケース置き場はともいい案だと思います。ですが、混雑時にあのスペースが開いてしまうのはもったいないと感じております。囲ってしまうのではなく、パーにするなど、混雑時には人も入れるような仕組みになればと思います。		
447	(施策11について)これまでも水害の際にエアメールを送信しているところ、避難先は歩いて行ける小学校となっていた。学区内には、老人介護所が複数あり、消防局の指導を受けている。それ以外の老人を自治連会長以下が連れて逃げる事になるが、施設の老人まで同行すると多人数になりすぎるのではないかと。避難先での合流は問題ない。		
448	補助金のお金はどこから発生するのですか？		
449	職員の育成とありましたが、この職員は窓口の相談、市民の参加促進以外に何を行なっていくのですか？		
450	学校から駅に行く際、電八幡前周辺の街灯が暗く、人も通らないので怖いです。また、道が狭いため車などと接触する危険性があるのでガードレールなどせっちしていただきたいです。		
451	京都特有の日本家屋と現代的な建物を融合した建築物を街に並べて欲しいです		
452	もっと綺麗な街になってほしい。ゴミが多い。賑やかな明るい街。		
453	もっと京都市の暮らしやすさをもっと推していく必要があると思います		
454	今までの文化を守りつつこれからも他の県に負けないような街を作って欲しい。いろんな技術を取り入れる。		
455	京都市がどのような活動をしているのか全然知らないのと提案とか意見とかないです。		
456	現在最も社会的脅威として扱われるコロナウイルスによる、損失や打撃についての対処が最も重要だと考える。皆が不利益や悪影響を受けているため、中途半端な補助や対策ではかえって批判を浴びてしまうのではないかと危惧している。健康面の被害やそれに付随する担い手不足はもちろんだが、経済的な打撃を受けている市民も多くいるだろう。補助の線引きや、感染対策による市民活動の抑制の範囲などを定めるのは容易ではないと理解しているが、ここで各地方行政の判断は、大きな目で見ても国家単位で影響すると思うので、慎重に判断して欲しいと思った。公共の福祉の観点から見ても、市政はもっと積極的かつ深くに介入していくべきだと思う。このような前代未聞の状況が訪れたときに、市民の安全を考え、批判を恐れずに、臨機応変かつ迅速に対応できるのも、「良い行政主体」の一つのモノサシとして、据えておくべきだという意見である。		
457	再び緊急事態宣言が出された状況において、新型コロナウイルスの感染拡大を終結させるためには、各市町村でこれまで以上の厳しい対策が求められる。それまでのライフスタイルが変化している現状を十分に考慮した上で、子育てや教育環境に対して適宜支援の実施や発案等が必要不可欠とされると私は考える。		
458	観光地化により市内の土地価格が高騰しているおりに、子育て世帯が家を購入することは難しくなっています。地域に若い世帯が住めなくなると将来地域を担っていく人達がいなくなるのは京都市にとって大きな損失になると思われます。若い世帯が長く住めるように支援をもっと手厚くしてほしいです。		
459	環境面で何か配慮していることはあるのか。		

番号	意見要旨	種別	本市の考え方
460	なぜ京都市営地下鉄の料金は高いのか、値下げしてほしい		
461	観光都市として、この数年間国内外問わず京都には多額のお金が落ちているにもかかわらず財政難になっている原因が何なのかの検証されていない。併せて古都税導入の復活を提案する。大規模寺院・神社からの税金徴収すべき。		
462	このコメント欄、下書き保存できるようにしてほしいです		
463	市民参加の名のもとに、住民への負担を増やさないことを望みます。		
464	議員も、若い世代が増えるのがよいと思う。		
465	市営の交通機関と民営の交通機関がもっと連携していくべき		
466	コロナのことを不安に思っている人たちに寄り添うような政治をする		
467	京都のニュース番組で「まちづくり」について報道する。		
468	もっと京都市の暮らしやすさをもっと推していく必要があると思います		
469	財政再建のため、市税は一切使用しないことを最大の基本方針と制定し、職員の人件費、交通費、文書費も認めないことを明記せよ		
470	市民はそちらにアイデアを提供しますが、暮らしやすい街以外に何を提供して頂けますか？		
471	色々な団体が協力して、取り組むことは分かったけれど、具体的な取り組みで決まっていることや実行していることはありますか？		
472	選挙には行けとよく言うが、政治をよく知らない人が政治に参加することは本当にいいことなのか。		
473	今、達成できていないと思うSDGsの課題はありますか？		